

## 2 「学校の教育力を高める」

**目標4. 教職員の指導力の向上**

**目標5. 学校経営の充実・向上**

**目標6. 教育環境の充実**

|      |   |   |
|------|---|---|
| 基本方向 | 2 | 学校の教育力を高める  |
| 目標   | 4 | 教職員の指導力の向上  |
| 具体目標 | ア | 教職員の研修と人材育成   |
| 具体施策 |   | (1)教職員の専門性や指導力向上を図るために、市独自の研修を積極的に推進します。<br>(2)くさつ教員塾により若手教員の育成を図ります。<br>(3)中学校の教員が小学校の教育活動に関わる等、小中教員の協働を推進します。 |

#### 取組状況

| 施策番号              | 事業名     | 担当課     | 事業の主な取組内容と成果  | 評価項目  | 最終到達目標値 | 目標(上段)と実績(下段)     |                        |                        |                         |                        |
|-------------------|---------|---------|---|---|---------|-------------------|------------------------|------------------------|-------------------------|------------------------|
|                   |         |         |   |   |         | H27               | H28                    | H29                    |                         |                        |
| (1) 教職員研修講座       | 教育研究所   | 教職員研修講座 | 教職員を対象とした指導力の向上を目指す研修として、人権教育や特別支援教育(※1)をはじめ9講座を夏期研修講座として実施し、その他自己啓発講座を年間4講座実施した。実習や演習を交えた実践的な内容で、各校の講座や、各校の直面する教育課題を踏まえた講座を実施することでき、高い満足度を得ることができた。  | 講座内容満足度(受講者アンケート)                           | 95.0%   | 目標<br>実績<br>目標達成度 | 95.0<br>99.5<br>104.7% | 95.0<br>99.0<br>100.0% | 95.0<br>98.5<br>103.7%  | 95.0<br>99.1<br>104.3% |
| (2) くさつ教員塾        | 教育研究所   | くさつ教員塾  | 教職経験年数が10年未満の若手教員を対象に実施している。情報教育、理科教育、幼児教育の3講座で合計168人の参加があつた。日々の教職業務に直結する内容や実技・演習を中心とした研修を設定することで、参加者から好評を得ることができた。   | 講座内容満足度(受講者アンケート)                           | 95.0%   | 目標<br>実績<br>目標達成度 | 95.0<br>94.0<br>98.9%  | 95.0<br>98.0<br>103.2% | 95.0<br>100.0<br>105.3% | 95.0<br>98.9<br>104.1% |
| (3) 小中による校種間連携の推進 | 児童生徒支援課 | 児童生徒支援課 | 草津市独自の中学校区別のグレードアップ連絡会を定期的に開催し、小中学校の教員が児童生徒の情報を共有し、協働した取組を進めた。中学校を通過して、小中の校種間連携を深めることことができた。この連絡会をもつことにより、連絡会で事例を取り上げることができる、問題解決につながった。しかししながら、各学校の組織対応の力を向上させることができてきている一方で、対応の困難度が高いケースが増えてきている。 | 問題事案解消度(事案解決にまたがる取組につながった事案数／連絡会で取り上げた総事案数) | 80.0%   | 目標<br>実績<br>目標達成度 | 65.0<br>65.7<br>101.1% | 70.0<br>69.8<br>99.7%  | 75.0<br>74.0<br>98.7%   | 80.0<br>78.7<br>98.5%  |

| 課題<br>施設番号        | 事業名     | 担当課   | 昨年度の外部評価委員等の意見   | 昨年度からの対応  | 今後の課題<br>外部評価委員の意見   |
|-------------------|---------|---|--|---|--|
| (1) 教職員研修講座       | 教育研究所   | 教育研修講座  | 年代によつてもニーズが異なるので、マッチングが非常に重要な要素である。多様な研修を用意してもらえたと思う。外勤の研修である限りは、積極的に参加できるような案内等もしてもらえたと思う。  | 講座設定において、いろいろな意見を聞き、内容の検討に注力した。働き方改革の観点を鑑み、開催日時についても教職員が参加しやすい期間設定を行つた。また、夏期研修講座の人権教育講座の一環として、東津市人権・同和教育研究会・委員会への参加を各小中学校で呼びかけ、人権教育にかかる研修の場を確保した。 | 会場の都合上、どうしても講座に人数制限が発生してしまったため、同一講座を午前・午後に分けて開催することも考えにくく。現場のニーズをしつかりとどらえ、講師の選定をしていく必要がある。 |
| (2) <さつ教員塾        | 教育研究所   | 働き方改革との兼ね合いはあるので難しい部分もあるが、横のつながりを作る貴重な機会があるので、積極的に参加を促してほしい。  | 定期的に学校訪問をしている教育委員会の専門員、教育研究所スキルアップアドバイザー(※2)の報告書等を参考に、講座内容を設定した。経験年数10年未満に限定してしまうことなく、希望者であれば参加できるようにした。また、くさつ教員塾は児童生徒の学習や学校生活に直接影響しない夏期休業中の研修としている。 | 夏期休業期間中の日程であるので、校外での研修を開催する際には、熱中症対策などもしっかりといかなければならぬ。広く現場のニーズをとらえて、内容の検討をしていく必要がある。  |  |
| (3) 小中による校種間連携の推進 | 児童生徒支援課 | グレードアップ連絡会の機会で、密な関係を作つておこなは大事だと思う。また、教科担当制である中学校教員から小学校教員に對して、効果的な連携について提案していただけると、小中連携がスムーズに進むのではないかと思う。 | グレードアップ連絡会では、これまでの情報交流に加えて、教師の指導力向上のため、生徒指導の手法などについても小中間の連携を図りながら、より学校の対応力の向上に努めた。   | グレードアップ連絡会等での小中連携の取組について、担当者から全職員へ広めたいき、学校全体の課題対応力向上へつなげる工夫が必要である。  |  |

注釈

(※1)特別支援教育…特別な支援を必要とする児童・生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するため、適切な指導および必要な支援を行う教育のこと。

(※2)スキルアップアドバイザー…市内教員を対象に授業指導や学級経営に関する巡回指導を行う高い指導力を有する校長経験者のこと。

|      |   |   |
|------|---|---|
| 基本方向 | 2 | 学校の教育力を高める  |
| 目標   | 4 | 教職員の指導力の向上  |
| 具体目標 | ア | 教職員の研修と人材育成   |
| 具体施策 |   | (1) 学校長による全教職員の授業参観や個別面談等を通して、個々の教職員の目標管理と指導、育成を図ります。 |

| 取組状況                  |       |   | 評価項目<br>最終到達<br>目標値                          |       |                                    |                        |                        |                        | 目標(上段)と実績(下段)          |                        |  |
|-----------------------|-------|---|--|-------|------------------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|--|
| 施設番号                  | 事業名   | 担当課   | 事業の主な取組内容と成果                                 |       |                                    | H27                    | H28                    | H29                    | H30                    | R1                     |  |
| (1) 人事評価制度<br>(※1)の実施 | 学校教育課 | 市立小中学校長が全教職員対象に、授業観察をもとにした個人面談を実施し、個々の教職員の取組目標について指導助言を行った。これをして、自指す学校教育目標について、教職員と校長が共通理解を図りながら、ともに学校運営に携わる意識を高め、教育活動を展開させることができた。 | 面談充実度(教員1人あたりの年間面談回数年間3回以上実施した教職員数／面談対象教職員数) | 95.0% | 目標<br>実績<br>95.0%<br>90.0<br>94.7% | 95.0<br>96.2<br>101.3% | 95.0<br>97.0<br>102.1% | 95.0<br>98.0<br>103.2% | 95.0<br>98.0<br>101.6% | 95.0<br>96.5<br>101.6% |  |

| 課題<br>施策番号    | 事業名   | 担当課 | 昨年度の外部評価委員等の意見  | 昨年度からの対応   | 今後の課題   | 外部評価委員の意見 |
|---------------|-------|-----|---|--|---|-----------|
| (1) 人事評価制度の実施 | 学校教育課 |     | <p>若い教員にとつて管理職があ話を聞いてくれる機会はあります。面談の回数もさることながら、教員のスキルアップや意識の向上に繋がるように制度を活用してほしい。</p> | <p>教職員との面談の中で、自己目標を明確にし、目標を達成するためにどのように取り組むかを相談していく。個人のスキルアップを図り、学校全体の力を高めるために管理職との定期的な面談を行っている。個別の面談の中で、教職員の思いを丁寧に聞き取り、人材育成に生かしている。</p> | <p>若手教職員がますます増えれる中で、各校での人材育成を早急に進めなければならない。中堅、ベテラン教職員のモチベーションを高め、それぞれの役割を明確にするような面談を行い、若手教員のレベルアップを図る必要がある。</p> |           |

#### 注釈

(※1) 人事評価制度…教職員自らが設定した目標の達成に向けて、「PDCAサイクルによる職務遂行」に自立的に取り組むことを通じて、教職員がその職務の遂行に当たり発揮した能力および挙げた業績を把握・評価することにより、組織の目標や使命の達成、教職員の育成や能力開発、職場の活性化などを実現していくうとするもの。

|      |   |  |
|------|---|--|
| 基本方向 | 2 | 学校の教育力を高める   |
| 目標   | 4 | 教職員の指導力の向上   |
| 具体目標 | イ | 教員の授業力の向上  |
| 具体施策 |   | (1)スキルアップアドバイザーや指導主事等の学校訪問による個別指導と教員研修を通して、全教員がタブレットPC等のICT機器を活用した授業を行えるようにし、授業力向上を図ります。 |

#### 取組状況

| 施策番号 | 事業名  | 担当課     | 事業の主な取組内容と成果   | 評価項目   | 最終到達目標      | 目標(上段)と実績(下段) |            |            |            |            |            |            |            |            |
|------|--|---------|--|--|-------------|---------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
|      |  |         |  |  |             | H27           | H28        | H29        | H30        | R1         |            |            |            |            |
| (1)  | 教育情報化リーダー養成研修<br>「タブレット活用推進リーダー(※1)研修」から事業名を変更 | 学校政策推進課 | 教育委員会主催の教育情報化リーダー養成研修を年7回行い、各学校におけるICT活用推進の核となる教員を育成し、その教員を中心として、ICTを活用した授業の質の向上を図った。とりわけ、令和2年度から必修化となる小学校プログラミング教育に重点を置き、実習や授業研究会を実施した。 | ICT活用指導力について「できる」というほうである!とする回答した教員の割合(※H30は調査項目が変更になった) | 目標<br>89.0% | 実績<br>82.7    | 目標<br>86.0 | 実績<br>86.4 | 目標<br>87.0 | 実績<br>88.7 | 目標<br>88.0 | 実績<br>83.3 | 目標<br>89.0 | 実績<br>86.3 |

| 課題<br>施策番号        | 事業名   | 担当課     | 昨年度の外部評価委員等の意見  | 昨年度からの対応   | 今後の課題<br>外部評価委員の意見 |
|-------------------|---|---------|---|--|--------------------|
|                   |   |         |   |  |                    |
| (1) 教育情報化リーダー養成研修 | ICT機器を活用することができるかと思うので、今後もこういった研修で、全ての教員がICTを活用できるようサポートしていってほしい。 | 学校政策推進課 | 平成29年度からタブレット活用推進リーダー研修を更に発展させて、「教育情報化リーダー養成研修」としての研修、協働学習ソフトの使い方の研修などを行い、日々の授業に活用できる内容を学んだ。令和元年度は、令和2年度から必修化となる小学校プログラミング教育に重点を置いて実習や授業研究会を実施し、各校のプログラミング教育指導計画を作成する場も設定した。各校で全教員がプログラミング教育を含むICTを活用することができるようにした。 | 国のGIGAスクール構想により、学習者用コンピュータの1人1台端末整備に国庫補助がなされたため、補助金を有効活用して1人1台端末の活用を進めるとともに、研修会を通じて1人1台端末の活用を進めていく必要がある。 |                    |

注釈

(※1)タブレット活用推進リーダー…ICT機器を活用した情報教育を推進するために校内研修を実施していくなど、中核を担う教員のこと。

|      |   |            |   |
|------|---|------------|---|
| 基本方向 | 2 | 学校の教育力を高める |   |
| 目標   | 4 | 教職員の指導力の向上 | 19 各学校で授業公開と授業研究を進めます。                      |
| 具体目標 | イ | 教員の授業力の向上  |   |
| 具体施策 |   |            | (1)全教員が授業を公開し、授業研究会や校内研究体制の充実を図り、授業改善を行います。 |
|      |   |            |   |

| 取組状況         |   |       | 目標(上段)と実績(下段)                             |          |              |              |              |              |              |    |
|--------------|---|-------|---|----------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----|
| 施策番号         | 事業名   | 担当課   | 事業の主な取組内容と成果                              | 評価項目     | 最終到達目標値      | H27          | H28          | H29          | H30          | R1 |
| (1) 授業研究会の開催 | 草津型アクティブラーニングのリーフレットを市内全教員に配布し、「わかりやすい授業」「興味関心を引き出す授業」を中心として取り組める授業「力のつく授業」をめざして、OJT(※1)を活用した校内での授業研究会の開催を啓発した。これにより、平成30年度は小中学校において学年や教科等単位で年間平均18.5回実施し、教員の授業改善への意識向上を図ることができた。 | 学校教育課 | 「授業がわから」と感じている児童生徒の割合(学校共通アンケート)<br>90.0% | 目標<br>実績 | 90.0<br>89.2 | 90.0<br>87.7 | 90.0<br>86.2 | 90.0<br>85.2 | 90.0<br>86.7 |    |

| 課題<br>施策番号   | 事業名   | 担当課   | 昨年度の外部評価委員等の意見   | 昨年度からの対応   | 今後の課題 | 外部評価委員の意見 |
|--------------|---|-------|--|--|-------|-----------|
|              |   |       |  |  |       |           |
| (1) 授業研究会の開催 | 他の教師の日常の授業を参観できるのは、特に初任者にとって非常に大きい助かりだなと思う。ポータルサイトでの公開授業の掲載も含めて、気軽に見ることができる環境づくりを進めていってほしい。 | 学校教育課 | 各学校では、子どもたちに身についてほしいと願うことに取り組みました。特に令和元年度は「教え方改革」に焦点を当てた研究が多く、教員同士の相互授業参観や中学校区内での相互参観なども頻繁に行われ、相互参観が常態化していきました。また、市教委においても、著名な講師を招聘しての「教えてセミナー」を全教職員を対象に実施し、約90名の参加がありました。 | 新型コロナ感染症予防対策により、多くが集まることのできない状況を経験し、毎年の夏季講座についてもオンライン研修を活用することを余儀なくされています。各校においても、OJT体制を活用し、目的ごとに少人数のプロジェクトチームでの研究会を実施するなどの工夫が必要になる。 |       |           |

注釈

(※1)OJT…職場での日常の業務遂行を通じて、必要な能力を意図的に育成すること。平成26年度以降、滋賀県総合教育センターの5年経験者研修として、各学校内で若手教員を中心としてグループでの学び合いや高め合いによるOJTを実施している。

|      |   |   |
|------|---|---|
| 基本方向 | 2 | 学校の教育力を高める  |
| 目標   | 4 | 教職員の指導力の向上  |
| 具体目標 | ウ | 教職員研究活動の推進  |
| 具体施策 |   | (1)教育研究奨励事業を通して教職員の自発的な研究活動の促進を図ります。<br>(2)教科等部会別研修会による教科や各種教育ごとの研究活動の充実を図ります。<br>(3)研修内容や開催期日等を工夫し、教育研究所の研究活動の充実を図ります。 |

取組状況

| 施策番号       | 事業名          | 担当課           | 事業の主な取組内容と成果  | 評価項目  | 最終到達目標 | 目標(上段)と実績(下段) |       |       |
|------------|--------------|---------------|---|---|--------|---------------|-------|-------|
|            |              |               |   |   |        | H27           | H28   | H29   |
| (1)        | 教育研究奨励事業     | 教育研究所         | 課題の設定にあたり、それぞれの課題の克服のためにに選んだものの、時代のニーズに合わせたものなど、様々なテーマの研究が集まつた。昨年度の39点を超える46点の研究論文の応募があり、教員の資質向上へのきづかげどすることができた。今年度は、応募点数も伸びたため、審査基準を若干厳しくした点が目標値が目標値に届かなかった理由として考えられる。 | 論文審査時の<br>審査員による<br>評価面<br>(21点満点<br>平均得点<br>%換算) | 70.0%  | 目標<br>実績      | 70.0  | 70.0  |
| (2)<br>(3) | 教科等部会別研修会の実施 | 学校政策推進課→学級教育課 | 市内全教職員が所属し、それぞれが担当する教科等の専門性の向上や最新の教育情勢についての研修、学校間の情報交換等を行う教科指導部会(※1)に成り果物を掲載した研修会を年2回以上実施した。これにより、市内各校での教科指導部会別研修会の割合   | 教材共有ポータルサイト「たび丸ねっと」<br>(※1)に成り果物を掲載した研修会の割合       | 91.4%  | 目標達成度         | 92.7% | 93.4% |

| 課題<br>施策番号                     | 事業名                            | 担当課   | 昨年度の外部評価委員等の意見  | 今後の課題<br>外部評価委員の意見  |
|--------------------------------|--------------------------------|---|---|---|
| (1)<br>教育研究奨励事<br>業            | 教育研<br>究所                      | 管理職には、教頭のマネジメントとリンクさせ人材育成の一つとして有効活用するよう周知している。また、研究発表大会を開催し、研究に取り組んだ多くの教員に発表の場を設けており、それが教育実践の相互交流の場にもなっている。さらに研究成果は、教育研究所が発行する所報に全文を掲載しており、教材共有ポータルサイト「たび丸ねっと」にも掲載している。 | 研究結果はもとより、研究に取り組むこと自体に成長の機会があることで、そのことをピールするることで、積極的に取り組む人を増やしてほしい。   | 教育研究会を丁寧に進めることができが、教員としての資質向上につながるという事業の意義を広報し、積極的な心事を継続して働きかけが必要がある。また、出来上がりがあった論文を広く知つてもらうため、それぞれの学校で行つた実践を交流できる場を設けてもらえるよう、動きかねる必要がある。 |
| (2)<br>教科等部会別研<br>修会の実施<br>(3) | 学校政<br>策推進<br>課<br>教<br>育<br>課 | 研修講座と教科部会を連動させることで、教科部会が、より主体的な活動になれば良いと思う。   | 教育研究所主催の夏期研修講座と教科等部会別研修を運動させて、教科や特別活動における研修の場を設定し、専門性を高め、市全体の教科研修会の組織や取組内容の充実を図りながら、各校での実践につなげていけるようにする必要がある。 |   |

## 注釈

(※1)教材共有ポータルサイト「たび丸ねっと」…市内の教職員が作成した教材や指導案を収集し、検索、ダウンロードして活用できるようにしたシステムのこと。優れた教材を活用することで授業の質を向上させることや、教材準備の時間を削減することが可能となる。

|      |   |   |
|------|---|---|
| 基本方向 | 2 | 学校の教育力を高める  |
| 目標   | 5 | 学校経営の充実・向上  |
| 具体目標 | ア | 学校の経営力の向上   |
| 具体施策 |   | (1)各学校が地域や子どもとの実態を踏まえ、ICT・環境・読書・英語教育など特色のある教育課程を編成し、実効性のある取組を推進します。 |

| 施策番号 | 事業名                   | 担当課     | 事業の主な取組内容と成果  | 評価項目                    | 最終到達目標値 | 目標(上段)と実績(下段)     |                      |                      |                      |                      |                      |
|------|-----------------------|---------|---|-------------------------|---------|-------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
|      |                       |         |   |                         |         | H27               | H28                  | H29                  | H30                  | R1                   |                      |
| (1)  | 学校改革・バイオニアスクールづくり推進事業 | 学校政策推進課 | 新学習指導要領の実施を見据えた教育を円滑に実施するため、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善をテーマに、学習環境の整備や仲間づくりなど、学校独自の特色ある取組を支援している。特色ある学校づくりを進めるために、各学校が作成した教育計画の内容に応じて予算配分を行った。 | 各校の自校評定で肯定的な回答の平均値(4段階) | 3.5     | 目標<br>実績<br>目標達成度 | 3.2<br>3.2<br>100.0% | 3.3<br>3.4<br>103.0% | 3.4<br>3.7<br>108.8% | 3.5<br>3.7<br>105.7% | 3.5<br>3.5<br>100.0% |

| 課題<br>施策番号               | 事業名     | 担当課 | 昨年度の外部評議員等の意見   | 昨年度からの対応  | 今後の課題  | 外部評議員の意見 |
|--------------------------|---------|-----|---|---|--|----------|
| (1) 学校改革バイオニアスクールくさつ推進事業 | 学校政策推進課 |     | それぞれの学校の特色を出していくといふのは良い取組だと思うので、予算化が難しい部分もあると思うが、継続してほしい。また、他校の取組も共有しながら、より良い取組を目指して発展させてほしい。 | 令和元年夏は、各小中学校で113名(延べ230回)の講師や学習サポートを招聘した。また、その取組は、学校便りや学校ホームページに掲載する形で地域にも発信している。 | 他校の取組を共有できるように、各校から情報発信を活性化させるとともに、市教育委で取りまとめた内容を共有するような流れにすること。 |          |

注釈

|      |   |  |  |
|------|---|--|--|
| 基本方向 | 2 | 学校の教育力を高める   |  |
| 目標   | 5 | 学校経営の充実・向上   |  |
| 具体目標 | ア | 学校の経営力の向上  |  |
| 具体施策 |   | (1)保護者や地域の活力を学校教育に活かし、関係機関との協力関係を深める取組を充実します。<br><br>(2)学校に対する児童生徒・保護者・教職員の評価結果を公開し、これに基づく外部評価を行います。 |  |

#### 取組状況

| 施策番号 | 事業名   | 担当課   | 事業の主な取組内容と成果   | 評価項目           |       | 最終到達目標 | 目標(上段)と実績(下段) |       |     |
|------|---|---|--|----------------|-------|--------|---------------|-------|-----|
|      |   |   |  | H27            | H28   |        | H29           | H30   | R1  |
| (1)  | 保護者や地域との連携<br>学校教育課                         | 学校図書館ボランティアや環境整備活動、総合的な学習の時間において、関係機関や地域人材、保護者等を活用した取組をしたことにより、各校の教育課程において多様な実践ができ、子どもたちの学びの広がりや深まりにつなげることができた。 | 地域協働会議実施事業件数<br>400件   | 目標             | 370   | 370    | 380           | 390   | 400 |
| (2)  | コミュニティ・スクールくさつの実施<br>(「学校関係者評価の実施から事業名を変更」) | 学校政策推進課   | 平成30年度から、すべての小中学校で、法律に基づく恒久制度であるコミュニティ・スクール(※1)として、学校運営協議会制度を導入しておき、学校運営の充実を図ることを目的に、必要な支援に關して協議したり、学校評価を行つたりした。 | 目標達成度<br>99.5% | 96.8% | 96.1%  | 94.6%         | 95.3% |     |

| 課題<br>施設番号            | 事業名     | 担当課 | 昨年度の外部評価委員等の意見  | 昨年度からの対応  | 今後の課題  | 外部評価委員の意見 |
|-----------------------|---------|-----|---|---|--|-----------|
| (1) 保護者や地域との連携        | 学校教育課   |     | 地域による協力は非常に大きいが、一方で本来関わるべきな保護者の存在が薄いようになり、従来のようなら保護者へ働きかけてもなかなか連携を図ってほしい。 | 保護者の関わりについての現状把握のためには「保護者のPTA組織に対する問い合わせ方」についての現状調査を実施したところ、従来のような保護者への働きかけでは難しい傾向にあることが明らかになつた。そのため、教員対象の研修を行い、保護者との連携について検討をしている。   | PTA組織の機能の低下に伴い、保護者との連携を図るためにより効果的な方法について検討していく必要がある。   |           |
| (2) コミュニティ・スクールくさつの実施 | 学校政策推進課 |     | これまで進めてこられた地域協働会と新たなコムニティ・スクールについて、それぞれの方向性を明確にしてほしい。                     | すべての中学校においてコムニティ・スクールを導入し、133名の学校運営協議会委員を教育委員会が委嘱した。令和元年度は、県CSアドバイザーチームとして招聘し、年間3回のコムニティ・スクール研修会を開催した。その中で、地域の教育力の向上を図る地域協働会と、学校の教育力の向上を目指して、大人と子どもとの学び合いの実現・充実化を図る地域協働会と、学校の教育力の向上を目標とする学校運営および運営への必要な支援に關して協議する合議制の機関であるコムニティ・スクール(学校運営協議会制度)について、それぞれの方向性を明確にし、「コムニティ・スクールの在り方について」、「学校運営協議会に求められる委員の役割」等について研修を行つた。 | 年間4回まで学校運営協議会を実施することができるが、令和元年度は、11校が3回実施で、11校は9校であり、11校が3回実施であった。コムニティ・スクールくさつの取組を推進していくためにも、多くの学校で4回実施していく必要がある。 |           |

#### 注釈

(※1)コムニティ・スクール…地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5に基づく学校運営協議会制度のことと、学校と保護者や地域の方がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、協働して子どもたちの成長を支え「地域とともにあります」といふ意味でのこと。

|      |   |            |
|------|---|------------|
| 基本方向 | 2 | 学校の教育力を高める |
| 目標   | 5 | 学校経営の充実・向上 |
| 具体目標 | イ | 教職員体制の充実   |

(1)学校不適応や不登校、小1プロブレム(※1)や中1ギャップ(※2)等、今日的な教育課題に対応する教員等の配置に努め、学校としての指導体制の充実を図ります。

(2)外國語活動、英語、理科等の授業における指導の充実を図るために、指導助手等の配置や研修会の実施に努めます。

(3)多様なニーズを意識した特別支援教育や組織的な生徒指導を強力に推進するための教員の加配等により、学校指導体制の充実を図ります。

#### 取組状況

| 施策番号       | 事業名   | 担当課     | 事業の主な取組内容と成果  | 評価項目   | 最終到達目標値 | 目標(上段)と実績(下段) |              |              |              |              |              |
|------------|---|---------|---|--|---------|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
|            |   |         |   |  |         | H27           | H28          | H29          | H30          | R1           |              |
| (1)<br>(3) | 小中連携加配教員(※3)配置事業<br>「グレードアップ加配教員配置事業」から事業名を変更 | 児童生徒支援課 | 学校での特別支援教育の推進および教育目標に応じた活動の推進を担当する教員の授業評減を図るために、「小中連携加配教員」を配置し、各校の課題に柔軟に対応できる指導体制の充実を図ることができる。また、中学校区別でのグレードアップ連絡会を定期的に開催し、小中学校の教員が児童生徒の情報を共有し、協働した取組を進めることができます。 | 問題事業解決度(事業解決または解決につながる取組ができる事業数／連絡会で取り上げた総事業数)                                       | 80.0%   | 目標実績          | 65.0<br>65.7 | 70.0<br>69.8 | 75.0<br>74.0 | 80.0<br>78.7 | 80.0<br>78.8 |
| (1)<br>(3) | 教室アシスタンント(※4)配置事業<br>「学校すこやかサポート支援員」から事業名を変更  | 児童生徒支援課 | 小中学校1年生や特別支援の必要な児童生徒を対象に、生活および学習の支援を担う支援員として、教室アシstantントを配置した。児童生徒への適切な支援がかながれると、個々のニーズに応じた配慮ができる指導体制の充実を図ることができます。   | 「配慮(支援)が必要な児童生徒の学習理解が把握できるようになります。担任がその後の指導に活かせるようになります。回答率(教室アシスタンント活用に賛同するアンケート結果) | 90.0%   | 目標実績          | 90.0<br>89.5 | 90.0<br>90.0 | 90.0<br>92.8 | 90.0<br>93.8 | 90.0<br>94.0 |
| (2)        | 英語力向上事業                                       | 学校教育課   | 小学校外国語活動の指導助手として、13人のJTE(日本人英語指導助手)(うち1人が2校兼務)を、小学校外國語活動および中学校英語科の指導助手として3人のALT(外國人英語指導助手)(1人が6～8校を巡回)を配置した。これにより、小中学校の教員がALTやJTEと協働して授業を行い、指導体制の充実を図ることができます。    | 英語指導助手の配置による学習効果・学長による5段階評価の平均   | 4.5     | 目標実績          | 4.3<br>4.2   | 4.3<br>4.0   | 4.4<br>4.2   | 4.4<br>4.1   | 4.5<br>4.4   |

## 取組状況

| 施策番号          | 事業名     | 担当課  | 事業の主な取組内容と成果                           |       |      | 評価項目 |      |      | 最終到達目標 |      |       | 目標(上段)と実績(下段) |        |        |        |        |
|---------------|---------|--|--|-------|------|------|------|------|--------|------|-------|---------------|--------|--------|--------|--------|
|               |         |  |  |       |      | H27  | H28  | H29  | H30    | R1   |       |               |        |        |        |        |
| (3) 中学事活動推進事業 | 児童生徒支援課 | 中学校において、特別な指導・支援を要する生徒への指導体制の充実を図るため、生徒指導担当加配を配置した。生徒指導担当の授業時数を軽減することで、生徒への支援や指導を推進することができた。 | はじめを含む問題行動等の発生件数の減少率(平成26年度886件を基準とする) | 24.0% | 目標実績 | 20.0 | 21.0 | 22.0 | 23.0   | 24.0 | 目標達成度 | 93.0%         | 174.8% | 239.1% | 205.7% | 130.8% |

| 課題<br>施設番号 | 事業名          | 担当課     | 昨年度の外部評議委員等の意見   | 昨年度からの対応   | 今後の課題   | 外部評議委員の意見 |
|------------|--------------|---------|--|--|---|-----------|
| (1)<br>(3) | 小中連携加配教員配置事業 | 児童生徒支援課 | 人材の配置には、人材の確保と予算の確保が必要で非常に難しいと思うが、学校にとって必要性の高い事業なので今後も継続していくほしい。               | 学校の指導体制充実のため、前年度と同規模の加配教員を配置することことができた。そのため、不登校児童生徒等の支援に十分に時間をかけたことができるようになった。グレードアップ連絡会では、情報の共有やケース会議等、小中の連携を図ることができるようになった。また、SCの心理受業等、未然防止につながる取組も行うことができる。   | 加配教員の配置が学校の指導体制の強化に重要な役割を果しているため、今後、より質の高い教員(人材)の確保に伴い、不登校児童生徒の個々の課題解決とともに、未然防止や早期発見等に重点を置いた取組が必要である。   |           |
| (1)<br>(3) | 教室アシスタンント事業  | 児童生徒支援課 | 子どもに関する日々の様子などについて、教室アシスタントから保護者にフィードバックできるような仕組みがあると良いと思う。                    | 教室アシスタンントについては、児童生徒への適切できめ細かな指導体制の充実のため、継続した任用、配置を進めた。一人ひとりの経験を踏み上げるとともに、発達障害への理解を深めること、特別支援教育の具体的な支援の方法等の研修会を行い、支援員による教員のスキルアップを図った。また、支援員による教員の負担事務業務を補助できるようにしたことで、教員の負担を軽減にもつながった。教員と支援員との話し合いをもち、担任から保護者に児童の様子を伝えることもできた。 | 教室アシスタンントのスキルアップとともに、支援員と教職員が共通理解のもと同一の方向性で関わるために連携を密にすることが重要である。そのため、教職員との話合いの時間を確保したり、情報を共有する方法を工夫したり、各校での取り組みを行うことが必要である。  |           |
| (2)        | 英語力向上事業      | 学校教育課   | 英語力の向上には、小中学生の頃からの慣れが重要だと思う。英語教育オンライン授業の実施は、人員の配置ほど予算も掛からないと思うので、積極的に取り組んでほしい。 | 平成28年度より小学校に導入した英語教育オンライン授業については、モデル校3校から平成29・30年度はそれぞれ7校に拡大して実施し、令和元年度は小学校全14校で実施した。また、平成29年度より外国人指導助手(ALT)とのチームティーチングを実施する中で、小学校3年生から慣れ親しめたところ、授業後の児童対象のアンケートで授業満足度が高かった(平成30年度4.1～令和元年度4.4:満足度を5としたときの小学校平均値)。              | 英語教育オンライン授業については、外国人とのコミュニケーション活動の充実を図るため、令和2年度も小学校全14校で実施する予定である。また、英語指導助手(TEAM TEACHER・ALT)とのチームティーチングを実施する活動の工夫や、小中の円滑な接続を図れるように、ICT活用などの草津市の強みをいかした授業実践に取り組んでいく必要がある。 |           |

| 課題                  | 事業名     | 担当課     | 昨年度の外部評価委員等の意見                                    | 昨年度からの対応  | 今後の課題   | 外部評価委員の意見 |
|---------------------|---------|---------|---|---|---|-----------|
| (3) 中学校生徒指導事業活動推進事務 | 児童生徒支援課 | 児童生徒支援課 | 成果が上がっていることには満足するのではなく、今後も継続、できれば拡充できるように検討してほしい。 | 市教委では、組織改編により学校教育課から児童生徒支援課が創設された。各中学校では、生徒指導主事が児童生徒に対する人的な援助を行い、生徒指導上の諸問題について、組織的な対応を図っていいる。また、問題行動対策委員会において、市内の中学校間や関係機関との連携も図りながら、校内に対して早期発見、早期対応に努めた。さらに、実施し校内の意識向上やスキルアップを図った。 | 生徒指導主事が校内の生徒指導の体制づくりや教員の意識向上を図る取組みをして推進し、組織力の向上を図る推進役として活躍できるようにしていく必要がある。その後引役としての役割を児童生徒指導主事が担い、初めて担当する者や若い生徒指導主事の育成をしていく必要がある。 |           |

#### 注釈

- (※1) 小1プロブレム…就学前教育から義務教育への移行期に、子どもらが初めての小学校生活に不慣れで、決められた時間の学習に落ち着いて臨んだり、集団生活に適応したりするのが困難な状況のこと。
- (※2) 中1キャップ…小学校から中学校に進学した際、人間関係の変化や心身の発達、思春期などにより、新しい環境になじめず、不登校やいじめの増加などの問題が生じる現象のこと。
- (※3) 小中連携加配教員…特別支援教育、小中連携、生徒指導および不登校・不適応支援対応の推進等について、学校独自の教育目標の実現と必要な学校教育の質の向上(グレードアップ)を図るために配置する教職員のこと。
- (※4) 教室アシスタント…特別支援教育をさらに推進する体制づくりの一環として、個別に支援を必要とする児童生徒に対して、一人ひとりの学びに応じた適切な支援を図るために全小中学校に配置している教職員のこと。

|      |   |            |
|------|---|------------|
| 基本方向 | 2 | 学校の教育力を高める |
| 目標   | 5 | 学校経営の充実・向上 |
| 具体目標 | ウ | 学校支援体制の充実  |

(1)特別支援教育や教育相談の運営を補助するための支援員の配置に努めます。

(2)学校図書館に司書教諭等と協力し支援を行う学校司書の配置に努めます。

(3)様々な教育問題に対して教員を支援する学校問題サポートチーム会議(※1)の充実に努めます。

| 取組状況                                       |                 |   |
|--|-----------------|---|
| 施策番号                                       | 事業名             | 担当課   |
| (1)<br>教室アシスタンント<br>配置事業<br>【再掲】(施策2<br>3) | 児童生<br>徒支援<br>課 | 小中学校1年生や特別支援の必要な児童生徒を対象に、生活および学習の支援を担う支援員として、「教室アシスタント」を配置した。児童生徒への適切で細かな対応と、個々のニーズに応じた配属ができる指導体制の充実を図ることができた。  |
| (2)<br>学校司書の配置<br>【再掲】(施策1<br>5)           | 学校政<br>策推進<br>課 | 学校における児童生徒の読書活動の充実を図るために、民間委託による学校司書を市内全小中学校に1日5、75時間、年間60日配置した。  |
| (3)<br>学校問題サポート<br>チームの設置                  | 児童生<br>徒支援<br>課 | 教育問題に対する学校への支援を目的としたサポートチーム体制をつくり、学校だけでは対応しきれないケースについて、弁護士、社会福祉士をスーパー・バイザーとしたサポート会議を開催した。これまでの解決事例等を参考に、早期対応、組織対応の意識が学校に浸透してきていることに加え、専門性に裏づけられた的確な助言により、多くのケースで収束、状況改善を図ることができた。 |

| 課題番号                          | 事業名   | 担当課     | 昨年度の外部評価委員等の意見   | 昨年度からの対応   | 今後の課題 | 外部評価委員の意見 |
|-------------------------------|---|---------|--|--|-------|-----------|
|                               |   |         |  |  |       |           |
| (1) 教室アシスタンント配置事業【再掲(施策2)(3)】 | 子どもに関する日々の様子などについて、教室アシスタントから保護者にフィードバックできるような仕組みがあると良いと思う。                               | 児童生徒支援課 | 教室アシスタンントについては、児童生徒への適切できめ細かな指導体制の充実のため、継続した任用、配置を進めた。一人ひとりの経験を積み上げることで、具体的な支援への理解を深めるなど、特別支援教育のスキルアップを図った。また、支援員による教員の業務を補助できるようにしたことで、教員の負担軽減にもつながった。教員と支援員との話し合いをもとに、担任から保護者に児童の様子を伝えることもできた。 | 教室アシスタンントのスキルアップとともに、支援員と教職員が共通理解のもと同一の方向性で関わるためには、そのために、教職員との話し合いの時間を確保したり、情報交換を共有する方法を工夫したり、各校での取り組みを行うことが必要である。 |       |           |
| (2) 学校司書の配置【再掲(施策1)5】         | 学校司書の存在は学校にとって非常に大きいと思うが、毎日学校図書館を開けるためには、図書館ボランティアとの連携が必要不可欠である。今後も学校図書館を通して読書活動を推進してほしい。 | 学校政策推進課 | 学校司書、学校図書館運営センターの配置等、学校での読書環境の整備充実を進めるとともに、学校図書館ボランティア交流会を実施し、ボランティアの方々の活動に役立つスキルアップ講座を開催した。学校図書館に関わる関係者の連携を強化することで、令和元年度もすべての学校で学校図書館の毎日開館を実現することができた。  | 「図書館を使った調べる学習コンクール」や「くさつビブリオバル」に継続して取り組むことで、子どもたちの読書活動を推進していく必要がある。  |       |           |
| (3) 学校問題サポートチームの設置            | 子どもたちを取り巻く環境が複雑化する中、スーパーバイサーの存在は重要な要素で、なってきていると思うので、今後も未然防止の観点も含めて継続していくつもり。              | 児童生徒支援課 | 学校への積極的な利用の呼びかけや対応方法を参考にしてもらいたい事例紹介については、継続して実施している。さらに、事業が起きた後の対応方針についてのサポートだけではなく、未然防止の観点を取り入れている。   | スーパーバイサーの専門性を生かして、問題に対して対応し、十分な成果が出ているが、今後は、問題が起きた後の対応方針を中心とした、未然防止につながるような活動を取り入れていく必要がある。                        |       |           |

注釈

(※1) 学校問題サポートチーム会議…学校で発生する諸問題のうち、法的な解釈を要するものや専門的助言を要する案件の解決に向けて、弁護士、社会福祉士を招いて行う会議のこと。

|      |   |                               |
|------|---|-------------------------------|
| 基本方向 | 2 | 学校の教育力を高める                    |
| 目標   | 5 | 学校経営の充実・向上                    |
| 具体目標 | ウ | 学校支援体制の充実                     |
| 具体施策 |   | (1)地域のボランティアによる学校支援の活動を推進します。 |

| 取組状況 |   |   |  | 評価項目                   | 最終到達目標値      | 目標(上段)と実績(下段) |             |       |       |       |       |
|------|---|---|--|------------------------|--------------|---------------|-------------|-------|-------|-------|-------|
| 施策番号 | 事業名   | 担当課   | 事業の主な取組内容と成果   |                        |              | H27           | H28         | H29   | H30   | R1    |       |
| (1)  | 生涯学習課<br>地域ボランティア<br>による学校支援<br>の推進(地域協<br>働合校性進事<br>業) | 生涯学習課<br>地域ボランティア<br>による学校支援<br>の推進(地域協<br>働合校性進事<br>業) | 以前は、支援参加者の実数把握ができず、見学者も含めた数値どなつていたが、コーディネーター配置により実数把握が可能どなつたことから、目標値ど実績が乖離する状況どなつているものの、年々支援参加者は増加傾向である。<br>地域の伝統文化継承、地域の歴史や郷土料理を学ぶ等、自分の地域を跨ることにつながる事業や、地域の生き物観察、まち探検、身近に働く人へのインタビュー、そろばんや書道等、専門的な学びに取り組んだ。地域への登録制(※1)のネットワークのもと、学校での支援ボランティアを登録制にしたり、活動内容を地域に広く案内したりすることで、これまで以上に子どもたちの体験活動を充実させることができた。<br>具体的な例として、立命館大学生による科学実験、星の観察など、教科につながる事業を実施した。 | 学校支援参加人<br>者平均延べ人<br>数 | 1,400人/<br>校 | 目標<br>1,200   | 実績<br>1,257 | 1,250 | 1,300 | 1,350 | 1,400 |
|      |   |   |  | 目標達成度                  |              | 104.8%        | 50.7%       | 53.8% | 54.4% | 56.7% |       |

| 課題<br>施策番号                            | 事業名  | 担当課       | 昨年度の外部評議委員等の意見   | 昨年度からの対応   | 今後の課題 | 外部評議委員の意見 |
|---------------------------------------|--|-----------|--|--|-------|-----------|
| (1)<br>地域ボランティアによる学校支援<br>（地域協働校推進事業） | 地域コーディネーターは、<br>学校のことを知っていて、<br>かつ、地域でのネットワーク<br>を持つ方ないと難しい。<br>引継ぎや負担の軽減も考<br>慮して、複数人の配置を検<br>討してもらいたい。 | 生涯学<br>習課 | 全小学校に地域コーディネーターを配置し、学校や<br>地域の架け橋にならなくて済むことが定着して<br>きた。平成31年4月には、地域コーディネーターを、<br>社会教育法に基づく地域学校協働活動推進員として<br>教育委員会が委嘱している。コーディネーターの<br>複数配置や、コーディネーターの活動時間について<br>も、各校一律から、上半期の実績に応じた傾斜配分<br>を採用するなど、各学校の状況に合わせた運用を<br>行った。また、広報くさづやコンパスに優良事例を紹<br>介し、地域協働校の取組の様子をより身近に感じ<br>ていただけるようにした。 | 多くの地域で、支援ボランティアの固定化<br>や高齢化が課題とされるが、現役世代も<br>仕事と家庭の両立で苦労しており、負担<br>軽減を視野に入れた学生ボランティア活<br>用など、関わり方を検討する必要がある。 |       |           |

注釈

(※1) 地域コーディネーター…子どもたちが様々な人ととの交流を通じた学習活動を行う機会と、地域の大入の「自らの生きがいを見つけたい」「まちづくり、人づくりのために貢献したい」という思いを結びつけ、子  
どもたちにとって、より良い教育環境を創り出す、学校と地域のパイプ役。

|      |   |  |
|------|---|--|
| 基本方向 | 2 | 学校の教育力を高める   |
| 目標   | 6 | 教育環境の充実  |
| 具体目標 | ア | 学校施設の整備  |
| 具体施策 |   | (1)子どもの安全な学習環境の確保と教育環境の改善のために、学校施設の非構造部材(※1)の耐震化、また、市有建物中長期保全計画に基づく、大規模改修の実施および老朽校舎の改築や長寿化を進めます。<br>(2)太陽光パネルの設置や校舎の大規模改修等においての高効率の照明器具の設置など、環境にやさしい学校施設の整備に取り組むとともに、校庭の芝生化については、地域の協力を得ながら進めます。 |

取組状況

| 施策番号 | 事業名                  | 担当課   | 事業の主な取組内容と成果  | 評価項目              | 最終到達目標                 |                      | 目標(上段)と実績(下段)          |                        |                       |
|------|----------------------|-------|---|-------------------|------------------------|----------------------|------------------------|------------------------|-----------------------|
|      |                      |       |   |                   | H27                    | H28                  | H29                    | H30                    | R1                    |
| (1)  | 非構造部材の耐震化および大規模改修の実施 | 教育総務課 | 非構造部材の耐震化工事を実施し、安全な学習環境を確保することができた。また、令和2年度に工事を実施する予定の学校について、調査点検・実施設計業務を実施した。<br>令和元年度工事実施校<br>令和元年度実施設計実施校<br>令和元年度工事実施校<br>また、大規模改修工事を実施し、教育環境の改善を図ることができた。                    | 目標<br>実績<br>目標達成度 | 10.0<br>10.0<br>100.0% | 25.0<br>10.0<br>40.0 | 40.0<br>40.0<br>100.0% | 55.0<br>55.0<br>100.0% | 70.0<br>65.0<br>92.9% |
| (2)  | 環境にやさしい学校施設の整備       | 教育総務課 | 新たな太陽光パネルの設置は実施できなかつたが、設備済みの学校については、環境教育の教材としての利用や売電を行つた。一方、校庭の芝生化については、維持管理について地域との連携を図つていくことが必要であることから新たな実施には至つていない。<br>また、大規模改修工事等において照明器具の省エネルギー化を進め、環境にやさしい学校施設の整備を図ることができた。 | 目標<br>実績<br>目標達成度 | 60<br>60<br>100.0%     | 63<br>63<br>100.0%   | 66<br>66<br>100.0%     | 69<br>67<br>97.1%      | 72<br>68<br>94.4%     |

| 課題<br>施設番号               | 事業名   | 担当課  | 昨年度の外部評議委員等の意見  | 今後の課題  |       | 外部評議委員の意見 |
|--------------------------|-------|--|---|--|-------|-----------|
|                          |       |  |   | 昨年度からの対応   | 今後の課題 |           |
| (1) 非構造部材の耐震化および大規模改修の実施 | 教育総務課 | 今後も、安全には十分に配慮しながら、計画的に進めさせてほしい。              | 学校に丁寧な説明を行い連絡を密にしながら工事を進めている。<br>今後も、計画的に校舎の非構造部材の耐震化および大規模改修工事を進め、安全・安心な学習環境の保持に努めていく。 | 市有建築物保全計画(※2)のなかで学校施設の長寿命化、工事手法の検討に加え、将来の少子化を見据えた学校施設のあり方や今後の改修等に係る予算の平準化を検討する必要がある。 |       |           |
| (2) 環境にやさしい学校施設の整備       | 教育総務課 | 長期間使用するものであるため、維持管理の視点からも、先を見据えた施設整備を進めてほしい。 | 校舎棟の大規模改修工事時に各教室や廊下の電灯をLED化している。  | 環境に配慮した学校施設の整備については、施設の維持管理にかかる地域の協力や金銭的、人的負担も考慮しながら検討していく必要がある。                     |       |           |

注釈

(※1) 非構造部材…柱、梁、床などの構造体ではなく、天井材や外壁(外装材)、窓ガラスなど構造体と区分された部材で、広い意味では設備機器や家具等を含めることがある。  
 (※2) 市有建築物保全計画…文部科学省においては、今後学校施設の老朽化対策として、建替えより安価で長期間の使用が可能となる「長寿命化改修」(建物の骨格を残して改装を行い耐用年数を延長させる工法)を推進することとしており、令和2年度を目指すよう各自治体に要請している。本市では、市有建築物保全計画で学校施設の長寿命化の内容が継続できている。

|  |   |                |
|--|---|----------------|
| 基本方向   | 2 | 学校の教育力を高める     |
| 目標   | 6 | 教育環境の充実        |
| 具体目標   | イ | 学校のICT化のさらなる推進 |
| (1) 時代に即したICT機器の整備や校務を効率よく行うためのシステムづくりを進めます。<br>(2) 教職員が授業や校務を効率よく行うためのシステムづくりを進めます。<br>(3) ICTによる教育システムについて、組織体制を含めた推進方法の検討を行います。 |   |                |

| 施策番号       | 事業名   | 担当課     | 事業の主な取組内容と成果   | 目標(上段)と実績(下段)     |        |              |      |      |                |
|------------|---|---------|--|-------------------|--------|--------------|------|------|----------------|
|            |   |         |  | 評価項目              | 最終到達目標 | H27          | H28  | H30  | R1             |
| (1)        | ICT機器の整備やデジタル教材の充実                            | 学校政策推進課 | 市内小中学校の普通学級および特別支援学級の全教室に電子黒板を配備するとともに、普通学級には3学級に35台のタブレットPCを特別支援学級には各学校10台のPadを配備している。また、デジタル教科書や協働学習ソフト(※1)も導入して、個別学習や一斉学習、協働学習に活用している。評価項目の実績が低下している理由としては、新型コロナウイルス感染拡大防止にともなう休校措置のため、3月いつばい活動されなかつたこと、また、ICT機器が教員にとって授業のマストアイテムとして活用されてきたことで、デジタル教科書が常時ログインした状態になつていているため、カウントに反映されなくなつてしまっている。 | 書の学級あたり月平均利用回数    | 18.0回  | 目標実績<br>9.4  | 9.1  | 20.7 | 14.4<br>13.6   |
| (2)<br>(3) | 校務支援システム(※2)の導入と教材共有ポータルサイト「たび丸ネット」の創設。<br>運用 | 学校政策推進課 | 平成28年度からは、成績処理や通知表、指導要録の作成を開始した。平成29年度からは、保健関係の処理ができるように調整し始めた。また、平成30年度から「たび丸ねつど通信」を発行し、市内外中学校の教員による自作の教材や指導案等を共有できる、教材共有ポータルサイト「たび丸ねつど」の掲載コンテンツ(※3)の充実と活用の促進を図った。  | 学校情報化優良校(※4)認定取得率 | 100.0% | 目標実績<br>70.0 | 80.0 | 90.0 | 100.0<br>100.0 |

| 課題<br>施設番号   | 事業名     | 担当課 | 昨年度の外部評価委員等の意見   | 今後の課題   |          |
|--|---------|-----|--|---|----------|
|  |         |     |  | 外部評価委員の意見   | 昨年度からの対応 |
| (1) ICT機器の整備<br>やデジタル教材<br>の充実                     | 学校政策推進課 |     | 機器については、国のGIGAスクール構想にそつて、補助金も活用しながら、有効なICT機器等の導入を検討を重ねた。「教育情報化リーダー養成研修」で授業研究会や草津型アクティブラーニングについての研修、協働学習ソフトの使い方の研修などを行い、各校での研修や日々の授業に活用できるように研修を実施した。 | 国のGIGAスクール構想により、学習者用コンピュータの1人1台端末整備が急速に進むこととなるため、研修会を通じて「人1台端末の活用を進めていく必要がある。」  |          |
| (2) 校務支援システム<br>の導入と教科<br>教材ポータルサ<br>ポートの創設・運<br>用 | 学校政策推進課 |     | 校務支援システムには、草津が誇れる取組だと思う。今後もセキュリティには万全を期してほしい。また、県規模でのシステム「つなげよう」の実現すると思うので、草津がリーダーシップを取つて進めてもらいたい。   | 校務支援システムについては、希望者向け研修会を実施した。校務支援システム外の個人情報を、セキュリティ保護されたサーバーに保管し、情報漏洩・紛失防止に努めた。県内他市町で、すでに草津市と連携を導入している自治体があるため、草津は、シス템的な面と人的な面での着目。危険性を想定し、その強化に向けたセキュリティポリシーの見直し・システムの構築を、具体的に進めて行く必要がある。 |          |

#### 注釈

- (※1)協働学習ソフト…個別学習や一斉学習、協働学習を実践するためのシステム。  
 (※2)校務支援システム…児童生徒に関する様々な情報を一元化し、出欠管理や成績処理、成績票の作成等の業務を電子化することで、教職員の校務・事務作業に係る負担の削減を図るもの。  
 (※3)携帯コンテンツ…WebサイトやCD(DVD)といった媒体を通じて閲覧できる文書や動画・音楽など、提供される情報。

(※4)学校情報化優良校…教育の情報化に取り組み、情報化によって教育の質の向上を実現している学校の申請に応じて日本教育工学会が認定を行うもの。認定基準は①学校情報化チェックリストのすべての項目の平均が2以上であること。②各項目のレベルが1以上(0の項目がないこと)である。

|      |   |   |
|------|---|---|
| 基本方向 | 2 | 学校の教育力を高める  |
| 目標   | 6 | 教育環境の充実   |
| 具体目標 | ウ | 学校図書館の整備・充実   |
| 具体施策 |   | <p>(1)学校図書館の蔵書に努め、子どもたちが図書に親しみ利用しやすい環境を整備します。</p> <p>(2)学校図書館業務支援や読み聞かせ等を行なうボランティアの育成と活動支援を推進します。</p> |

| 取組状況 |             |     | 目標(上段)と実績(下段)   |        |       |        |        |        |        |        |
|------|-------------|-----|---|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 施策番号 | 事業名         | 担当課 | 評価項目  | 最終到達目標 | H27   | H28    | H29    | H30    | R1     |        |
| (1)  | 学校図書館蔵書充実事業 | 総務課 | 学校図書館蔵書充実率(小中合算)  | 100.0% | 目標実績  | 96.8   | 97.6   | 98.4   | 99.2   | 100.0  |
|      |             |     | 読書活動の拠点のほか学習情報センターとしての機能など、学校図書館が持つ役割は年々大きくなっていることから、文部科学省「学校図書館基準(※1)」による学校図書館の蔵書充実率100%達成を目指す。市立図書館の充実に努めている。令和元年度においても、各小中学校の蔵書充実率を勘案して予算を配当し、各校からの購入希望図書を取りまとめ、教育絵画課で一括して図書の購入を行った。       |        | 目標達成度 | 100.0% | 102.5% | 103.5% | 102.6% | 102.0% |
| (2)  | 学校図書館支援事業   | 図書館 | ボランティア交流会参加者アンケートによる満足度(よかつた)   | 90.0%  | 目標実績  | 85.0   | 86.0   | 88.0   | 90.0   | 90.0   |
|      |             |     | 市立図書館が持つ専門性や経験を活かした学校教育活動の支援充実に努めた。<br>巡回図書ブックン(※2)1の実施。(市内外学校14校へ年3回、学期毎の入れ替え)<br>・小中学校への出張ブックトーク(※3)の実施。<br>・図書館見学や職場体験学習生徒の受け入れ。<br>・学校図書館充実のための支援・連携を行った。<br>・学校図書館ボランティア交流会等への講師派遣や会場提供。 |        | 目標達成度 | 99.5%  | 111.7% | 108.4% | 111.1% | 111.1% |

| 課題<br>施設番号      | 事業名   | 担当課 | 昨年度の外部評議委員等の意見  | 昨年度からの対応   | 今後の課題   | 外部評議委員の意見 |
|-----------------|-------|-----|---|--|---|-----------|
| (1) 学校図書館図書整備事業 | 教育総務課 |     | 児童生徒は増えていると思うので、今後も充足率100%を超過するよう整備し続けてほしい。   | 児童生徒の増加にも対応し、また廃棄する図書の入れ替えにも対応できる予算を確保し、引き続き充足率100%が達成できるよう努めた。                        | 学校図書館機能の充実に向けて、今後も充足率100%を維持できる予算を確保していくとともに、学校とも連携を図つていく必要がある。   |           |
| (2) 学校図書館支援事業   | 図書館   |     | 学校図書館だけではなく教室に本を多く置くことで、外で遊びたい子どもや、本に興味がない子どもが、興味を持つきっかけになるとと思う。今後も「ブックン」を始め、子どもが本に触れる機会を増やす取組を継続してほしい。 | 学校図書館へのアンケート調査の実施し、学校図書館のニーズを把握し、支援の充実を図った。<br>また、「ブックン」の活用方法や、「図本セット貸出サービス」の利用促進に努めた。 | 「ブックン」をより活用してもらうため資料の入れ替えや新セットを増やすなど必要な充実を図る必要がある。<br>また、「出張ブックトーク」の未実施校に対し、さらなる活用を目指して、引き続き、教職員への働き掛けが必要である。 |           |

#### 注釈

- (※1)学校図書館標準…公立義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の基準として、平成5年3月に文部省(現文部科学省)が定めたもの。
- (※2)ブックン…公共図書館が運んだ約200冊のテーマ別小学校向け図書の4セット。環境学習、写真集と絵本、滋賀県にゆかりのある作家、国語の教科書に出てくる関連読み物。各学期ごとに市内小学校を順番に巡回するセットの総称。
- (※3)ブックトーク…一つのテーマで様々なジャンルの本を順序立てて紹介する手法。

|      |  |             |  |
|------|--|-------------|--|
| 基本方向 | 2  | 学校の教育力を高める  |  |
| 目標   | 6  | 教育環境の充実     |  |
| 具体目標 | 工  | 教育委員会の充実・改革 |  |
| 具体施策 | (1) 教育委員が教育現場や地域に出向き、教育現場の実情や地域の教育に対する思い、ニーズを把握する仕組みをつくります。<br>(2) 透明性を高めるために事業の評価・改善を行って、その成果や教育行政に関する情報を、ホームページや広報紙等を通じて、さらに積極的に発信します。 |             |  |

#### 取組状況

| 施策番号              | 事業名   | 担当課   | 事業の主な取組内容と成果   | 評価項目  | 最終到達目標値 | 目標(上段)と実績(下段) |        |        |
|-------------------|-------|-------|--|-------|---------|---------------|--------|--------|
|                   |       |       |  |       |         | H27           | H28    | H29    |
| (1) 開かれた行動する教育委員会 | 教育総務課 | 教育委員会 | 各教育委員が教育施設への訪問や行事に積極的に参加し、定期教育委員会において各教育委員から参加された行事等の活動報告をしてもらうことで、教育に関する取組の理解を深めるとともに、現場の意見や市民の声を教育委員会全体で共有することができた。  | 実績回数  | 48回     | 24            | 30     | 36     |
| (2) 教育行政情報の積極的な発信 | 教育総務課 | 教育委員会 | 教育委員会に関する情報について、プレスへの資料提供やホームページの更新などにより積極的な発信に努めたが、市ホームページのリニューアルに伴い、ホームページ構成が変更されたことから、アクセス数が目標値を下回った。<br>また、教育委員会の広報紙である「コンパス」を年に4回発行し、市内戸配布を行い、教育委員会の活動をわかりやすく市民に発信した。 | 目標達成度 | 79.2%   | 156.7%        | 127.8% | 114.3% |

| 課題                | 事業名   | 担当課   | 昨年度の外部評議委員等の意見   | 今後の課題  | 外部評議委員の意見 |
|-------------------|-------|-------|--|--|-----------|
| (1) 開かれた行動する教育委員会 | 教育総務課 | 教育委員会 | 今後も、学校現場や行事などを直接見ただき、学校の声や保護者の声、市民の声を聞いて、反映できるような活動を続けてほしい。  | 教育委員の活動内容を、総合教育会議(※1)などにおける議論につなげていく必要がある。   |           |
| (2) 教育行政情報の積極的な発信 | 教育総務課 | 教育委員会 | 今後も積極的な発信を取り組んでほしい。ホームページについてには、見たい情報が見つかりにくいことがあるので、検索ページで閲覧件数が高い順にソートするなど、見やすくなるように、より一層の工夫をしてもらいたい。 | ホームページについて、掲載内容の充実や更新頻度を高めるとともに、探しやすく、見やすくなるような工夫をしていく必要がある。また、町内会への配布内容の見直しを受けて、「コンパス」の配布についても全戸配布の代替策を検討していく必要がある。 |           |

注釈

(※1) 総合教育会議…平成27年4月1日施行の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、各自治体に設置が義務付けられた会議で、首長が招集し、首長、教育委員会により構成され、教育の振興に関する施策の大綱の策定や、教育条件の整備等重点的に講ずべき施策、緊急の場合に講ずべき措置について協議・調整を行う会議のこと。

|      |   |   |
|------|---|---|
| 基本方向 | 2 | 学校の教育力を高める  |
| 目標   | 6 | 教育環境の充実   |
| 具体目標 | 工 | 教育委員会の充実・改革   |
| 具体施策 |   | (1)就学前教育、小中連携教育、地域とともにある学校づくり、少人数授業等、教育政策やそれらの実現に向けた組織体制のあり方について、幅広い議論と検討を行います。 |

| 施策番号 | 事業名           | 担当課   | 事業の主な取組内容と成果   | 評価項目                             | 最終到達目標 | 目標(上段)と実績(下段) |          |          |          |          |
|------|---------------|-------|--|----------------------------------|--------|---------------|----------|----------|----------|----------|
|      |               |       |  |                                  |        | H27           | H28      | H29      | H30      | R1       |
| (1)  | 教育政策に関する幅広い議論 | 教育総務課 | 総合教育会議を1回、教育委員会協議会(※1)を毎月開催し、教育施策に関する現状と課題、令後の方針性等について幅広い議論を行つたことにより、本市教育の更なる充実に向けた市長部局と教育委員会の連携協議会の開催回数 | 総合教育会議<br>と教育委員会<br>協議会の開催<br>回数 | 15回    | 目標<br>実績      | 16<br>16 | 15<br>15 | 15<br>14 | 15<br>15 |
|      |               |       |  | 目標達成度                            | 100.0% | 100.0%        | 93.3%    | 100.0%   | 86.7%    |          |

| 課題   |               | 事業名   | 担当課 | 昨年度の外部評価委員等の意見   | 昨年度からの対応  | 今後の課題 | 外部評価委員の意見 |
|------|---------------|-------|-----|--|---|-------|-----------|
| 施設番号 | 課題名           |       |     |  |   |       |           |
| (1)  | 教育政策に関する幅広い議論 | 教育総務課 | 教育課 | 教育に関する問題を解決していくには、市長部局との連携は今後ますます重要になると思う。また、学校の取組を市長に対してアピールすることでのICT教育について議論をしたことにより、市長部局と教育委員会が共通理解を深めることができた。予定していた学校の取組をテーマにした総合教育会議は、新型コロナウイルス感染拡大により中止した。また、総合教育会議の結果が今後の本市の教育施策につながるよう、適正なテーマを選定していく必要がある。 | 総合教育会議において、国の動向などを踏まえた今後のICT教育について議論をしたことにより、市長部局と教育委員会が共通理解を深めることができた。また、総合教育会議の結果が今後の本市の教育施策につながるよう、適正なテーマを選定していく必要がある。 |       |           |

注釈

(※1)教育委員会協議会…本市において教育委員の研さんや意見交換の場として、平成23年より開始した会議。基本的には月1回、定期教育委員会の開催日に実施している。



### 3 「地域に豊かな学びを創る」

**目標7. 生涯学習・スポーツの充実**

**目標8. 文化・芸術の振興**

**目標9. 地域協働校の推進**

|      |    |   |
|------|----|---|
| 基本方向 | 3  | 地域に豊かな学びを創る   |
| 目標   | 7  | 生涯学習・スポーツの充実  |
| 具体目標 | ア  | 生涯学習の充実   |
| 具体施策 | 施策 | 31 生涯学習の機会の充実を図ります。   |
|      |    | (1)あらゆる世代の学習ニーズの把握に努め、大学等と連携した専門的な学習の充実を図ります。                         |
|      |    | (2)学習情報の提供や相談窓口、学習成果発表の場の充実と周知に努めます。                                  |
|      |    | (3)図書館資料の充実に努め、市民の多種多様な資料要求に的確、迅速に提供を行います。また、図書館利用を促す情報発信を積極的に行っています。 |
|      |    | (4)小学校区など生活区域を中心とし、身近な課題や地域の特性を生かした講座の開設を進めます。(まちづくり協働部が補助執行)         |

#### 取組状況

| 施策番号 | 事業名               | 担当課   | 評価項目  | 目標(上段)と実績(下段) |       |               |               |               |                      |
|------|-------------------|-------|---|---------------|-------|---------------|---------------|---------------|----------------------|
|      |                   |       |   | 最終到達目標        | H27   | H28           | H29           | H30           | R1                   |
| (1)  | 大学等と連携した専門的な学習の充実 | 生涯学習課 | 受講後、地域活動への参加など学習成果を生かしたいと希望した人の割合   | 60.0%         | 目標 実績 | -             | 54.0          | 56.0          | 58.0 60.0            |
| (2)  | 学習情報の活用           | 生涯学習課 | 市や社会教育関係施設で実施する生涯学習に関する講座やイベント等の情報を集めた、生涯学習ガイドブック「説・友」(※1)を発行し、学習情報の発言に努め、生涯学習のきっかけづくりや学びを生かした社会参加への一歩としての役割を担つた。また、滋賀県学習情報システム「おねつど」やフェイスブックなどのSNS、市のメール配信サービスを利用した学習情報の提供を行うなど、様々なアプローチ方法で学習情報の配信に努めた。  | 28,500人       | 目標 実績 | 28,350 25,327 | 28,400 26,561 | 28,500 26,197 | 28,500 30,777 29,214 |
| (3)  | 図書館運営事業           | 図書館   | 多種多様な資料収集に努めた。多くの市民に図書館を利用していくための広報活動の強化やICタグ導入に伴う図書館新システムにより、ホームページや資料検索機能を充実させた。「司書の一箱選書」をはじめとする毎月様々なテーマ展示を実施したり、「くさつの本棚」や「みなくさ文庫」等のブックリストの作成など情報発信の充実を図つた。新規事業として、市内外子ども食堂へのニーズに合わせた団体セット貸出サービスの実施や読み聞かせなどを始めた。様々な事業充実のために、UDCBK、みな☆クサひろば等、市役所の他課・他機関との連携についても積極的に行った。 | 60.0%         | 目標 実績 | -             | 65.0 60.8     | 70.0 88.2     | 75.0 56.1 57.6       |
|      |                   |       |   |               | 目標達成度 | -             | 93.5%         | 126.0%        | 74.8% 72.0%          |

| 課題<br>施策番号               | 事業名   | 担当課  | 昨年度の外部評価委員等の意見   | 昨年度からの対応  | 今後の課題   | 外部評価委員の意見 |
|--------------------------|-------|--|--|---|---|-----------|
| (1)<br>大学等と連携した専門的な学習の充実 | 生涯学習課 | 受講後に学習成果を生かしたいと希望した人がが多くを占めるということは、それだけ協力的な方が多いといふべきだと思うので、生涯学習において、地域の力に聚りながら学ぶように教えてもらいたい。 | 各回の会場で、地域の学びを支援するための「学びの地域支援講座」や、学習ボランティア登録制度である「ゆうゆうびとバングル」登録者を説き手として講座などもするために、ゆうゆうびとバングル登録者を説き手として講座などもするための市主催事業について、自身の学びをつかさどめた講師を配置し、周知を図り、受講生の地域での新たな活動への誘導を行った。                                   | 受講者の約半数がリピーターであることから、魅力的な講座展開ができるおり、事業が定着してきているものと看えているが、受講者の地域活動への説明や、新規受講者の獲得など、講座の手法やテーマの精査や、広報手段を継続して検討する必要がある。               | 現在地域における活動を行っていない方を各事業に取り組むことが出来るよう情報発信を行うことが必要となつていて。インターネットを利用して情報を収集する方も増えていることから、紙媒体やインターネットを利用して、情報の発信に努める必要がある。また、ふだん車両を利用した講座情報の発信や、講座のオンラインマンド(※2)にも合わせて行っていく必要がある。 |           |
| (2)<br>学習情報の活用           | 生涯学習課 | SNSなど様々な媒体を使用して、情報発信をすることで、参加者の裾野が広がると思うので、積極的に取り組んでほしい。                                     | 「語・遊・友」は、市や各地域まちづくりセンター等が実施予定の講座やイベント等を掲載した学習情報誌であり、事業ごとに对象者が異なることから、掲載記事の仕分けや構成方法の見直し、また、イラストや写真を追加するなど視覚的な情報を追加することにより必要な情報を見つけやすいよう改善を行つた。また、講座の周知に市のFacebookを利用するホームページ、若い世代の情報収集ツールであるホームページ向上に取り組んだ。 | 引き続き、資料充実と、レフアレンスサービスの認知度向上に努める必要がある。資料のアクセス環境の整備のため、フリーWi-Fiを導入する必要がある。市内各地域の特徴(人口構造等)による全域サービスの充実化移動図書館によるステーションの見直しを検討する必要がある。 |   |           |
| (3)<br>図書館運営事業           | 図書館   | アンケートなどで集めた利用者の声を生かした運営を今後も続けてほしい。   | 利用者アンケートにおける市民意見全体のうち資料購入・買取率は83%に及んでいます。また、資料充実のための予算の確保に努めました。また、利用者アンケートにおいてレフアレンスサービスの認知度を調査した(25.4%)。レフアレンスサービスの認知度向上に向けて、レフアレンス資料の継続的な収集やレフアレンス情報の充実及び図書のスキルアップ研修に努めた。                               |   |   |           |

### 注釈

- (※1) 生涯学習ガイドブック「語・遊・友」…市で実施する生涯学習やイベント情報を集めた、学習情報冊子のこと。  
 (※2) オンデマンド…聞き逃してしまった番組やニュース、もう一度見たい過去の放送番組を、いつでも好きな時間に、HPを介して聞くことができる仕組み。  
 (※3) レフアレンスサービス…生活中の疑問や学習を支援する調べもの等について必要となる資料を検索・提供・回答するサービス。

|      |     |  |
|------|-----|--|
| 基本方向 | 3   | 地域に豊かな学びを創る  |
| 目標   | 7   | 生涯学習・スポーツの充実   |
| 具体目標 | ア   | 生涯学習の充実  |
| 具体施策 | (2) | （1）地域にねさした誰もが利用しやすい施設の充実を進めるとともに、子どもから高齢者まで幅広い世代が共に学びを深めるための学習機会を提供します。<br>（2）草津市文化芸術機能等施設整備基本計画(※1)に基づき、「市民が集い創造する歴史・文化・芸術の拠点づくり」を基本理念とし、施設整備に向けた検討を行います。 |

| 取組状況 |                                 |       | 評価項目   |        |                   |     |     |     | 目標(上段)と実績(下段) |    |  |
|------|---------------------------------|-------|--|--------|-------------------|-----|-----|-----|---------------|----|--|
| 施策番号 | 事業名                             | 担当課   | 事業の主な取組内容と成果   | 最終到達目標 | 目標                | H27 | H28 | H29 | H30           | R1 |  |
| (2)  | 草津市文化芸術機能等施設整備による基本計画の検討<br>（2） | 生涯学習課 | 平成25年度に策定された、草津市文化芸術機能等施設整備機能（歴史伝統では、展示機能（芸術文化館機能）と文化財の展示収蔵機能（歴史伝統館機能）を整備することとしているが、クレアホールの県からの移管や経済的な状況等により、施設の整備を終らざり、（仮称）市民総合文化交流センター（※2）に展示機能を確保できるよう調整を行うとともに、文化財等の展示収蔵機能についても、草津市文化財保存活用地域計画（※3）の策定過程において検討を行った。また、各々の状況について、文化振興審議会に報告を行った。 | —      | 目標<br>実績<br>目標達成度 | —   | —   | —   | —             | —  |  |

| 課題<br>施策番号 | 事業名                       | 担当課   | 昨年度の外部評議委員等の意見  | 今後の課題  | 外部評議委員の意見  |
|------------|---------------------------|-------|---|--|--|
| (2)        | 草津市文化芸術機能等施設整備による施設整備基本計画 | 生涯学習課 | 引き続き、専門の審議会において、議論を続けてほしい。また、新たな施設が、教育活動にどのくらい役立つかという視点で考えてほしい。 | 「草津市文化芸術機能等施設整備基本計画」で示されている展示機能と文化財の展示収蔵機能について、文化振興審議会において、(仮称)市民総合交流センターの整備状況や、草津市文化財保存活用地域計画の策定状況を報告し、課題や活用について議論を行った。 | 展示機能については、(仮称)市民総合交流センターを令和3年度から市美術展覽会の会場として使用予定であり、移転事務を行中で新しい施設の教育・文化振興への活用について検討を進めること。その詳細について、草津市文化財保存活用地域計画に基づいて検討を進める。また、各々の機能の状況を文化振興審議会へ報告し、課題等を検討する。 |

#### 注釈

(※1) 草津市文化芸術機能等施設整備基本計画…草津市では、平成21年度に子育て支援センターや教育研究所、文化芸術・歴史伝統館等の複合施設を三ツ池に整備するものとして(仮称)市民文化の森基本計画を策定したが、その後滋賀県立しが県民芸術創造館の市への移管など計画の再検討が必要が生じたことから、既存施設の連携や有効活用を考慮しながら、芸術文化館と歴史伝統館の機能について整備していくものとして、平成25年度に草津市文化芸術機能等施設整備基本計画を策定した。  
 (※2) (仮称)市民総合交流センター…草津駅周辺に点在している公共施設の機能集積のため、中心市街地活性化のコア施設として、新しい機能を加えた複合施設を民間活力を活用しながら、整備に取り組む。  
 (※3) 草津市文化財保存活用地域計画…草津市における文化財の保存・活用に地域社会全体で取り組むにあたって、より具体的な検討を進めるため、草津市歴史文化基本構想を発展させた同計画を策定し、文化庁の認定を受ける予定。

|      |   |   |
|------|---|---|
| 基本方向 | 3 | 地域に豊かな学びを創る                               |
| 目標   | 7 | 生涯学習・スポーツの充実                              |
| 具体目標 | ア | 生涯学習の充実                                   |
| 具体施策 |   | (1)「ゆうゆうびとバシク」制度の周知に努め、その活用についての見直しを進めます。 |

| 施策番号 | 事業名                     | 担当課 | 事業の主な取組内容と成果  | 評価項目              | 最終到達目標                |                       | 目標(上段)と実績(下段)         |   |
|------|-------------------------|-----|---|-------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|---|
|      |                         |     |   |                   | H27                   | H28                   | H29                   | H30                                       |
| (1)  | 学習ボランティアの育成・活用<br>生涯学習課 |     | 市民の学びや知識・経験を生かした社会参加を促すための学習ボランティアを育成し、広く市民の生涯学習を支援するため、「ゆうゆうびとバシク」の登録者情報をまとめた冊子を発行した。また、講師経験の少ないバシク登録者を対象とした「ゆうゆうびとバシク」制度(※2)を実施したり、「ゆうゆうびとバシク」制度についての方針について協議を行った。また、「ゆうゆうびとバシク活動に満足している登録者の割合(※3)」開催は中止など、学習ボランティアの育成・支援を行った。また、「ゆうゆうびとバシク」を各地域まちづくりセンター、図書館などの市内公共機関窓口、市内幼保小中学校等、ホームページ、地域コーディネーター情報交換会等で配布・周知し、地域活動での講師として、活躍する場の提供を行った。 | 目標<br>実績<br>65.0% | 55.0<br>53.0<br>65.0% | 57.0<br>53.0<br>96.4% | 60.0<br>57.4<br>93.0% | 63.0<br>76.2<br>95.7%<br>121.0%<br>125.4% |

| 課題<br>施設番号         | 事業名   | 担当課 | 昨年度の外部評価委員等の意見   | 今後の課題   | 外部評価委員の意見 |
|--------------------|-------|-----|--|---|-----------|
| (1) 学習ボランティアの育成・活用 | 生涯学習課 |     | <p>ゆうゆうびとバンクが、より周知されれば、登録も増えて利便性が上がると思う。また、地域コーディネーターがうまく活用できることで、学校での活動にもつながると思う。</p> | <p>より多くの方に、ミスマッチなく、このバンクを利用することによって、「やうネットくさつサポート」の会(※4)で情報を取り入れる冊子作りに努めた。また、登録者の属性を改善するため、パワフル交流・市民の日など機会があるごとに、登録者・登録分野の拡大のため啓発に努めた。また、地域協働会合校における活動の講師として登録者を紹介したり、地域コーディネーター情報を交換会等においても制度の活用を周知するなど、情報提供と登録・活用の促進に努めている。</p> <p>生涯学習に関する講座をボランティアで実施することを自ら希望し登録される、バンクの制度が生じてしまつたため、登録者のすそ野を広げる必要がある。また、受け手側が必要とする経験や資格などの情報収集に努めながら、やうネットくさつサポートや社会教育主事が学びの仲介となり、受け手側の満足度を高めていく必要がある。</p> <p>今後は、やうネットくさつサポート会議で協議し、バンク登録者のスキルアップについても、「やうゆうびとのつどい」の開催を検討していく。</p> |           |

#### 注釈

- (※1) ゆうゆうびとバンク…美術や音楽、スポーツ、語学など様々な知識・技術・経験を生かしたいという個人やグループが登録している学習ボランティア制度のこと。
- (※2) ゆうゆうびと講座…講師経験の少ないやうゆうびとバンク登録者を対象に、市どやうネットくさつサポートの金の支援の下、講座を実施するもの。
- (※3) ゆうゆうびとのつどい…バンク登録者や日々の学習活動に取り組んでいる方がたの交流を図り、また研修を行う集まり。
- (※4) ゆうネットくさつサポートする人の会。

|      |   |  |
|------|---|--|
| 基本方向 | 3 | 地域に豊かな学びを創る  |
| 目標   | 7 | 生涯学習・スポーツの充実   |
| 具体目標 | ア | 生涯学習の充実  |
| 具体施策 |   | (1)こどもエコクラブ活動等、学校、家庭、地域で取り組める環境学習の機会を提供します。<br>(2)環境学習を推進する人材の育成や環境学習団体への支援と交流、連携を促進します。(市長部局において執行) |

| 取組状況 |                 |         | 事業の主な取組内容と成果   | 評価項目            | 最終到達目標値         | 目標(上段)と実績(下段) |          |          |
|------|-----------------|---------|--|-----------------|-----------------|---------------|----------|----------|
| 施策番号 | 事業名             | 担当課     |  |                 |                 | H27           | H28      | H29      |
|      |                 |         | 市内全小中学校において、環境学習を教育課程の中に位置づけて実施した。また、地域の自然環境を学ぶ学習や体験的・各校の特色を踏まえた社会づくりに關する先進的な取組など、各校の特色を踏まえた取組も進め、保護者や地域へ情報発信を行った。 | 環境学習を実施している学校の数 | 目標<br>実績<br>20校 | 19<br>19      | 20<br>20 | 20<br>20 |
| (1)  | 小中学校における環境学習の推進 | 学校政策推進課 |  | 目標達成度           | 100.0%          | 100.0%        | 100.0%   | 100.0%   |

| 課題                  | 事業名     | 担当課   | 昨年度の外部評価委員等の意見   | 昨年度からの対応  | 今後の課題 | 外部評価委員の意見 |
|---------------------|---------|---|--|---|-------|-----------|
| (1) 小中学校における環境学習の推進 | 学校政策推進課 | 小中学校からグローバルな環境問題に意識を持ちつつ、草津ならではの環境学習の内容について考えながら、今後も取り組んでほしい。 | 草津市こども環境会議は、くさつエコスタイルプラザが主催しており、学校政策推進課も連携している。令和元年度のこども環境会議には、市内全20小中学校のブース出展に加え、市外の学校からも出展があり、各ブースで質問形式のエコ活動取材ラリーを行った。 | 各校の環境学習の締めくくりとしてこども環境会議の位置づけを継続できるようにしていく。また、こども環境会議の実施方法については、くさつエコスタイルプラザと連携して、より良い方法を検討する。 |       |           |

注解

|      |   |   |    |                       |
|------|---|---|----|-----------------------|
| 基本方向 | 3 | 地域に豊かな学びを創る   |    |                       |
| 目標   | 7 | 生涯学習・スポーツの充実  |    |                       |
| 具体目標 | イ | スポーツの推進   |    |                       |
| 具体施策 |   | (1)総合型地域スポーツクラブ(※1)の育成と学校体育施設等の活用による地域スポーツ活動を推進します。<br>(2)各種スポーツ大会等の充実とレクリエーションスポーツの普及や健康づくり事業の展開を行います。<br>(3)生涯スポーツの推進を目指す市民団体の育成・支援を進め、市民のスポーツ参加を促進します。 | 施設 | 35 市民の生涯スポーツ活動を支援します。 |

| 取組状況                   |         |   |                      | 事業の主な取組内容と成果 |       |       |       |       |       |       |       | 目標(上段)と実績(下段) |       |       |       |       |
|------------------------|---------|---|----------------------|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------------|-------|-------|-------|-------|
| 施設番号                   | 事業名     | 担当課   | 評価項目                 | 最終到達目標値      | H27   | H28   | H29   | H30   | R1    | 目標    | 実績    | 目標達成度         | 目標    | 実績    | 目標達成度 |       |
| (1) 総合型地域スポーツクラブ活動支援事業 | スポーツ保健課 | 総合型地域スポーツクラブの会員数増加に向けた活動基盤強化をはじめ、障害者スポーツの体験イベントや新規サークルの開設等に対する支援を行った。目標としたする会員数の増加は実現できなかつたものの、当初目標を上回る回数の定期サークル活動の実施等が会員数の増加につながり、スポーツを気軽に楽しめる環境を整えることができた。  | 総合型地域スポーツクラブ会員数      | 750人         | 目標達成度 | 550   | 600   | 650   | 700   | 750   | 目標達成度 | 556           | 576   | 583   | 565   | 588   |
| (1) 学校体育施設開放事業         | スポーツ保健課 | 地域のスポーツ活動等を推進するため、小中学校の体育館およびグラウンドを学校教育に支障がない範囲で、スポーツやレクリエーション活動を実践できる場を提供することができた。   | 学校開放登録者数             | 3,700人       | 目標達成度 | 3,500 | 3,550 | 3,600 | 3,650 | 3,700 | 目標達成度 | 3,518         | 3,748 | 3,648 | 3,842 | 4,444 |
| (2) 各種スポーツ大会等の充実       | スポーツ保健課 | 令和元年度より、草津市民スポーツ・レクリエーションの会場をYMITアリーナとすることで、雨天時の心配をすることなく開催できることに加え、子どもを対象にした種目や学年区分対抗の種目、老若男女が楽しめるバドミントンなどといった新たな種目を実施した結果、屋内外を会場としていた平成30年以前と比較し、屋内会場に限定し、会場面積が縮小したことから参加者数が減少したものとの、各学年から多くの方に参加いただき、市民ランフェスティバル(※2)、チャレンジスポーツティー(※3)、草津市駅伝競走大会等の各種大会を開催するとともに、令和2年度の健幸都市くさつランフェスティバル開催に向けて、民間事業者主体で構成している健幸都市くさつランフェスティバル実行委員会を設立し、協議をするなど、市民の健康づくりを推進することができた。 | 市民スポーツ・レクリエーションの参加者数 | 1,000人       | 目標達成度 | 900   | 920   | 940   | 970   | 1,000 | 目標達成度 | 895           | 997   | 1,065 | 570   | 741   |

| 取組状況 |                               |   | 事業の主な取組内容と成果 |    |   |         |     |   |   | 目標(上段)と実績(下段) |   |   |       |        |        |        |       |       |    |
|------|-------------------------------|---|--------------|----|---|---------|-----|---|---|---------------|---|---|-------|--------|--------|--------|-------|-------|----|
| 施策番号 | 事業名                           | 担当課   | 評価項目         |    |   | 最終到達目標地 | H27 |   |   | H28           |   |   | H29   |        |        | H30    |       |       | R1 |
| (3)  | 地域スポーツクラブ(※4)設立の支援<br>スポーツ保健課 | 市民が身近にスポーツができる環境を整えるため、小学校区の体育振興会会長で構成する草津市体育振興会連絡協議会を通じて、新たなクラブの設立に向けた機運の醸成に努めたが、結果として新設には至らなかつたものの、学校開放事業の運営支援など、設立後の支援を通じて、組織の安定化を図った。 | 地域スポーツクラブ設立数 | 目標 | 4 | 4       | 4   | 5 | 5 | 6             | 6 | 7 | 目標達成度 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 83.3% | 71.4% |    |

| 課題                     | 事業名  | 担当課     | 昨年度の外部評議委員等の意見  | 昨年度からの対応   | 今後の課題 | 外部評議委員の意見 |
|------------------------|--|---------|---|--|-------|-----------|
| (1) 総合型地域スポーツクラブ活動支援事業 | 総合型地域スポーツクラブの取組がさらに市民に浸透するようにしてほしい。  | スポーツ保健課 | 2名分の入会費補助を行い、クラブ運営体制を強化し、会員数の増加や活動の促進につながった。また、組織の自主運営を図るために、草津市広報により会員の募集やイベントの周知を行っては、ノルディックウォーキングの普及・促進のために、ノルディックウォーク体験会を実施するとともに、クラブの啓発活動を行った。 | 総合型地域スポーツクラブが認知度を高め、効率的な運営をされることは、支事務局体制や活動基盤強化に向けた支援を継続的に行う必要がある。   |       |           |
| (1) 学校体育施設開放事業         | 学校体育施設を開放することは良いことだと思うが、利用者のマナー向上も課題であるので、継続して取り組んでほしい。地域のスポーツクラブに委託していることによる成果と課題を整理して、より良い事業になるよう取り組んでほしい。 | スポーツ保健課 | 毎年、草津市立学校体育施設開放運営委員会を開催し、施設利用の促進や適正な施設利用について協議するとともに、施設利用にかかる調整会議にて、利用希望者へ、施設利用時の厳守事項について周知徹底を行った。  | 利用希望者が幅広くいる学校もある現状を踏まえて、より良い学校開放のルールを検討し、学校体育施設利用者に対して、利用にかかるルールや厳守事項の遵守について徹底していく必要がある。   |       |           |
| (2) 各種スポーツ大会等の充実       |  | スポーツ保健課 | イベント毎の参加者アンケートの結果に基づいて、次回以降の開催に取り入れていってほしい。   | だれもが気軽に参加できる「草津市民スポーツクリニック」などの各種事業を展開しているところであり、参加者(運営スタッフ含む)の御意見を、次期開催イベントがより良いものとなるよう取り入れながら、それぞれの運営の見直しや広報の充実を通じて、さらなる参加者の増加に努めた。 |       |           |

| 課題<br>施策<br>番号     | 事業名     | 担当課 | 昨年度の外部評議委員等の意見  | 昨年度からの対応   | 今後の課題   | 外部評議委員の意見 |
|--------------------|---------|-----|---|--|---|-----------|
| (3) 地域スポーツクラブ設立の支援 | スポーツ健康課 |     | 新たな地域スポーツクラブの設立と運営には、人・財源・拠点などが必要となると思う。設立後に何を目標にするのか、先を見据えたサポートをしてもらいたい。 | 既設の地域スポーツクラブの安定的な運営に向けて、市のHPにクラブの年間活動予定表を掲載し、クラブの開拓に努めるとともに、運営に係る指導・助言はじめ、それにかかる相談や現場サイドの意見集約等、運営調整を密に行い、また、学校開放用消耗品の支給等のサポートを行った。 | 新たな地域スポーツクラブの設立に向けては、各地域特性やスポーツ推進等にかかる地域の取組状況を踏まえて、地域への働きかけや相談を行う必要がある。また、既設の地域スポーツクラブの安定的な運営に向けても、継続して支援する必要がある。 |           |

#### 注釈

- (※1) 総合型地域スポーツクラブ…地域住民のだれもが、いつでも、どこでも、いつまでも、スポーツを気軽に楽しむことのできる生涯スポーツ社会の実現を基本理念とし、生涯にわたってスポーツに親しむ能力や体力・運動能力の向上、健康の保持・増進の基礎を培うため、各種スポーツ教室やイベントなどを行うもの。
- (※2) 健幸都市くさつランフェスティバル…競技志向より観光志向を強調し、誰もが参加しやすいスポーツイベントを実施し、その開催を通じて、公園の有効活用とともにぎわいの創出を図ることを目的とした健幸都市「草津」をアピールする健康増進イベントのこと。
- (※3) チャレンジスポーツティー…健康づくりや市民の交流を図るため、市内の各所で市民の誰もが参加できるスポーツイベントを実施し、より多くの市民にスポーツを楽しんでもらい、生涯スポーツの推進を図ることを目的としたイベントのこと。
- (※4) 地域スポーツクラブ…市内の小学校を活動拠点とし、地域住民の誰もが気軽にスポーツを楽しむことができる活動を定期的に実施するスポーツクラブ。草津市では、現在、志津、矢倉、山田、若上・若上西、常盤小学校区で活動されている。

|      |   |   |
|------|---|---|
| 基本方向 | 3 | 地域に豊かな学びを創る   |
| 目標   | 7 | 生涯学習・スポーツの充実  |
| 具体目標 | イ | スポーツの推進   |
| 具体施策 |   | (1) 競技スポーツの推進を目指す団体の育成・支援を進めます。<br>(2) 国民体育大会に向けた選手やアスリートの育成を進めます。<br>(3) プロスポーツ団体の活動を支援し、市民のスポーツへの関心を高めます。 |

取組状況

| 施策番号                    | 事業名     | 担当課   | 事業の主な取組内容と成果                         | 評価項目     | 最終到達目標     |            | 目標(上段)と実績(下段) |            |               |
|-------------------------|---------|---|--------------------------------------|----------|------------|------------|---------------|------------|---------------|
|                         |         |   |                                      |          | H27        | H28        | H29           | H30        | R1            |
| (1)<br>草津市スポーツ協会等活動支援事業 | スポーツ保健課 | 公益社団法人草津市スポーツ協会の運営や活動を支援し、人員体制の強化に取り組んだ。また、スポーツ協会、各競技団体、指定管理業者と連携しプロスポーツ選手など連携したスポーツ組みを進めた。<br>草津市の競技力の指標とした滋賀県民体育大会における草津市の総合得点は、参加種目が減少したために順位が下降したが、上位に入賞する競技は増加しており、引き続き競技力の向上を図っていく。                   | 県民体育大会(総得点数)<br>90点                  | 目標<br>実績 | 70<br>56.5 | 75<br>58   | 80<br>61      | 85<br>55   | 90<br>57.83   |
| (2)<br>国民体育大会選手育成事業     | スポーツ保健課 | 国民体育大会の選手の発掘や育成の取組として、草津市スポーツ協会において実施されたジュニア世代の選手発掘および競技力向上のためのスポーツ教室、講習会の開催を支援した結果、年度末の事業については新型コロナウィルス感染症の影響により中止したが、競技団体と連携し、スポーツ教室や講習会を開催することことで、ジュニア世代の競技力向上につなげた。                                     | 競技力向上の<br>ためのスポーツ教室や講習会の参加者数<br>800人 | 目標<br>実績 | 400<br>312 | 600<br>349 | 700<br>765    | 800<br>988 | 890<br>111.3% |
| (3)<br>プロスポーツ団体等支援事業    | スポーツ保健課 | 新型コロナウィルスの影響により、実施回数が目標値に至らなかつたものの、トップアスリートとの交流を通じて、児童がスポーツに限らず自分の夢や希望に向かって努力する大切さを認識した。<br>また、昨年度に引き続き、スポーツ少年団事業でも事業を行うことができました。<br>さらに、滋賀レイクスターズが発行する「レイクスマガジン」を各小学校に配布し、市民がプロスポーツ団体等を応援していく機運を高めることができた。 | MIOびわこ滋賀夢先生事業の実施回数<br>8回             | 目標<br>実績 | 8<br>8     | 8<br>7     | 8<br>7        | 8<br>5     | 8<br>62.5%    |

| 課題<br>施策番号              | 事業名   | 担当課   | 昨年度の外部評議委員等の意見  | 今後の課題  | 外部評議委員の意見 |
|-------------------------|---|---|---|--|-----------|
| (1)<br>草津市スポーツ協会等活動支援事業 | 競技スポーツと生涯スポーツを、明確に区別する必要もないと思うので、生涯スポーツの振興と併せて取り組んでほしい。 | スポーツ保健課   | プロスポーツ選手と連携したスポーツ教室や子ども向け体験教室の開催により、競技力の向上に取り組むとともに、草津市民スポーツ・レクリエーション祭等により、子どもたちがバンドデニスやスポーツ吹き矢といった生涯スポーツを創出することが出来た。                                       | 引き続き、国民体育大会等の大規模大会に向けた競技力向上のため、草津市市スポーツ協会を中心として、市内競技団体等と一緒に情報共有や連携に取り組んでいく必要がある。 |           |
| (2)<br>国民体育大会選手育成事業     | スポーツ保健課   | 幼少期から特定の種目に取り組むのも良いことだと思うが、より多くの種目に触れる機会があると、自分に適したスポーツを見つける一助になると思う。 | 競技団体や草津市スポーツ振興事業体と連携して教室を開催することで、ジュニア世代の競技力向上につなげた。   | 選手の育成については、草津市スポーツ協会だけでの取組には限界があり、大学や県スポーツ協会等と連携しながら、指導者の確保・育成を推進していく必要がある。      |           |
| (3)<br>プロスポーツ団体等支援事業    | スポーツ保健課   | プロの選手に直接触れ合う機会は貴重なので、競技人口の少ないスポーツの選手も含めて様々な取組を検討してほしい。                | サッカーチーム「MIOびわこ滋賀」の選手等が市内の学校を訪問し、子どもたちと交流する「MIO夢先生事業」の実施を通じて、子どもたちにスポーツの魅力を伝えるとともに、トップアスリートとの交流を通じて、夢を学ぶ機会をつくることができた。マイナースポーツ等と子どもたちのマッチングや、中学校への取組も広げていきたい。 | 引き続き、専門性を活かしたサッカー教室やイベントを行うことで、地域住民との交流機会を創出する必要がある。                             |           |

注釈

|      |   |              |  |
|------|---|--------------|--|
| 基本方向 | 3   | 地域に豊かな学びを創る  |  |
| 目標   | 7   | 生涯学習・スポーツの充実 |  |
| 具体目標 | イ   | スポーツの推進      |  |
| 具体施策 | (1)国民体育大会に向けた社会体育施設の整備・改修を計画的に実施し、施設の利用促進を図ることにより、スポーツの推進に努めます。 |              |  |

#### 取組状況

| 施策番号 | 事業名          | 担当課     | 事業の主な取組内容と成果  | 評価項目         | 最終到達目標 |        | 目標(上段)と実績(下段) |       |       |
|------|--------------|---------|---|--------------|--------|--------|---------------|-------|-------|
|      |              |         |   |              | H27    | H28    | H29           | H30   | R1    |
| (1)  | 社会体育施設管理運営事業 | スポーツ保健課 | 国民スポーツ大会に向けて、野村運動公園の整備に取り組むとともに、社会体育施設における必要な施設更新を通じて、利用者の満足度向上を図った。また、子どもから高齢者まで参加できるスポーツ教室の実施を通じて、市民がスポーツに取り組むきっかけとなり、スポーツを継続する人の増加が図れ、結果として、施設の利用が促進できた。 | 施設利用者の満足度(%) | 90.0%  | 86.0   | 88.0          | 90.0  | 90.0  |
|      |              |         |   | 目標達成度        | 93.0%  | 100.0% | 75.9%         | 74.2% | 81.1% |

| 課題<br>施設番号     | 事業名     | 担当課 | 昨年度の外部評価委員等の意見  | 外部評価委員の意見  |  |
|----------------|---------|-----|---|--|--|
|                |         |     |   | 今後の課題  |  |
| (1) 社会体育施設管理事業 | スポーツ保健課 |     | <p>新しい施設ができたので、多くの市民に来てもらう機会を作つてもいい、市民が愛着を持つてもらおうにしてほしい。</p> <p>また、ハード面での整備とソフト面での面論として、充実にも引き続き取り組んでほしい。</p> | <p>ふれあい体育館の機能維持を目的としてふれあい体育館の改修工事を行つた。また、国民スポーツ大会や県道拡幅に向け野村運動公園グラウンド防球ネット改修工事の実施設計を行つた。さらに、令和元年6月22日にYMFアリーナの供用を開始Vリーグ(バレーボール)やBリーグ(バスケットボール)といった大規模スポーツイベントを開催し、身近にプロスポーツ等を感じる機会を増やすことができた。</p> <p>スポーツ環境の充実に向け、引き続き社会体育施設の整備を行うとともに、「新たなにぎわいの創出」に向け、各関係団体等と連携を図りながら事業を展開し、利用者満足度を高める取組を進める必要がある。</p> |  |

注釈

|      |   |   |
|------|---|---|
| 基本方向 | 3 | 地域に豊かな学びを創る   |
| 目標   | 8 | 文化・芸術の振興  |
| 具体目標 | ア | 文化財の調査・整備・活用  |
| 具体施策 |   | (1)各種文化財の調査を進め、積極的な情報提供を図ります。<br>(2)各種文化財の保護・継承に努めます。<br>(3)史跡草津宿本陣等の文化財を公開し、活用に努めます。 |

#### 取組状況

| 施策番号              | 事業名    | 担当課 | 事業の主な取組内容と成果  | 評価項目  | 最終到達目標            | 目標(上段)と実績(下段)              |                            |                           |                           |                           |
|-------------------|--------|-----|---|---|-------------------|----------------------------|----------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
|                   |        |     |   |   |                   | H27                        | H28                        | H29                       |                           |                           |
| (1) 埋蔵文化財調査事業     | 歴史文化財課 |     | 個人住宅建築および遺跡範囲確認調査として199㎡、民間開発に伴い7,105㎡の発掘調査を行ったほか、各種開発に先立ち71,277㎡を対象とした試掘調査を実施した。その結果、各遺跡の内容を記録化し、地域の歴史を解明する資料を得ることができた。  | 発掘調査面積累計<br>88,000m <sup>2</sup>              | 目標<br>実績<br>目標達成度 | 18,000<br>17,966<br>99.8%  | 41,000<br>44,832<br>109.3% | 63,000<br>59,767<br>94.9% | 81,000<br>69,179<br>85.4% | 88,000<br>76,483<br>86.9% |
| (2) 史跡草津宿本陣保存整備事業 | 歴史文化財課 |     | 史跡草津宿本陣の第2次保存管理計画に基づいた東地区の整備工事は終了したなどを通じて、今後の史跡全体の現状と課題を踏まえた、「保存と見取りなど」を通過する基本計画である「史跡草津宿本陣保存活用計画」を策定した。  | 第2次保存修理工事等の進捗率(執行済事業費累計/第2次保存事業費総額)<br>100.0% | 目標<br>実績<br>目標達成度 | 59.0<br>59.0<br>100.0%     | 68.0<br>67.0<br>98.5%      | 75.0<br>83.0<br>110.7%    | 83.0<br>83.0<br>100.0%    | 83.0                      |
| (3) 史跡草津宿本陣管理運営事業 | 草津宿交渉館 |     | 史跡草津宿本陣を適切に公開・管理するとともに、文化財(史跡)を活用した各種事業を実施した。主な事業として、伝統文化に触れる「本陣座」事業(※1)を月例(3回)は、コロナウィルスの影響により中止。)で、四季折々の設えににより本陣の魅力向上を図る「本陣四季彩々」(※2)など、年4回開催。関係部局と連携した「本陣結婚式」なども実施し、草津宿を年間19,600人間入館者数で年間20周年記念事業の展開に努めた。入館者は18,075人。上半年は、開館20周年記念事業の影響で団体客のキャンセルにより、目標値(※3)に及ばなかった。 | 草津宿本陣年間入館者数<br>19,600人                        | 目標<br>実績<br>目標達成度 | 18,500<br>18,803<br>101.6% | 18,700<br>18,694<br>100.0% | 19,600<br>18,050<br>92.1% | 19,600<br>17,905<br>91.4% | 19,600<br>18,075<br>92.2% |

| 課題                   | 事業名      | 担当課 | 昨年度の外部評価委員等の意見                                | 昨年度からの対応   | 今後の課題   | 外部評価委員の意見 |
|----------------------|----------|-----|---|--|---|-----------|
| (1)<br>埋蔵文化財調査事業     | 歴史文化財課   |     | 計画を策定する中で、文化財を教育に生かせるように、展示スペースの整備などを検討してほしい。 | 令和元年度は、草津宿街道交流館において、埋蔵文化財の企画展を開催した。その他、新たな展示スペースの確保はできなかつたが、小中学校の職場体験や地域のまちづくり協議会での講演会の他、ショッピングモールでのイベントを開催し、多くの子どもや地域の方々に歴史文化に触れる機会を提供できるよう取り組んだ。 | 現在、文化財の展示公開施設は草津宿街道交流館のみである。「草津市歴史文化基本構想」および「草津市文化財保存活用地域計画」において、当市の歴史文化の特徴を「生産」「信仰」「街道」に分類していることから、各特徴を活かせる保存・公開施設の展開を検討していく必要がある。 |           |
| (2)<br>史跡草津宿本陣保存整備事業 | 歴史文化財課   |     | 本陣の整備と併せて市内他の文化財の保護・継承についても検討してほしい。           | 令和元年度には、「史跡草津宿本陣」の保存活用計画のほか、「史跡芦蒲観音寺跡」の整備基本計画を策定した。今後も、これらの「街道」「信仰」の文化財と合わせて、「生産」の文化財の保護も推進していく。また、文化財保護助成事業を通じて、指定文化財の適切な保存管理を進めていく。              | 史跡草津宿本陣については、保存活用計画を踏まえ、指定地域全域の公開・活用に向け、現公開範囲の防災対策事業や未整備箇所の整備等の整備を進め。令和2年度は耐震調査を行い、引き続き整備基本計画の策定に取組む必要がある。                          |           |
| (3)<br>史跡草津宿本陣管理運営事業 | 草津宿街道交流館 |     | 市民に親しまれる文化財として今後も進めてほしい。                      | 本陣のリピーターの魅力発信に向けて、SNSなどを利用した情報発信に努めた。また、草津宿街道交流館とともに、「みちくさラボ」事業(※5)を展開し、子どもたちから文化財に触れてもらい、親しんでもらえる風土の醸成に努めた。                                       | リピーター層的魅力ある事業展開が求められるが、文化財であることから事業内容にも制限があり、創意工夫が必要である。また、新型コロナウイルスの影響により見学・参加型の事業展開に制限があるため、SNSをはじめとした種々の情報発信に力を入れていく必要がある。       |           |

注釈

- (※1)「本陣樂座」事業…草津宿本陣の楽座館を会場に毎月定期で実施している落語会などの伝統芸能鑑賞講座のこと。
- (※2)「本陣四季彩々」…本陣のリピーター確保を目指し、季節感ある書画や雛人形を展示するなど四季折々の変化をもたらせる演出のこと。
- (※3)目標値…総合計画に定めた史跡草津宿本陣と草津宿街道交流館との両館入館者数32,700人(平成30年度)のうち本陣入館者数をいう。
- (※4)柳差遺跡から出土した鋸造関連遺構…平成29年度および30年度の発掘調査で、野路町字柳差に所在する柳差遺跡において、国内最古の歴史遺跡などが出土した。
- (※5)「みちくさラボ」事業…平成30年度からスタートした草津宿街道交流館・史跡草津宿本陣での子ども向け事業で、対象事業に参加するとノベルティとポイントがもらえる。

|      |   |   |
|------|---|---|
| 基本方向 | 3 | 地域に豊かな学びを創る   |
| 目標   | 8 | 文化・芸術の振興  |
| 具体目標 | イ | ふるさと意識と郷土愛の醸成   |
| 具体施策 |   | (1)地域に根ざした各種文化財の適切な保存・継承とその育成に努めます。<br>(2)地域の歴史を紹介する展覧会や講座を実施し、市民が地域の歴史に触れる機会づくりに努めます。<br>(3)学校と連携した地域の歴史学習の場を設けます。 |

#### 取組状況

| 施策番号          | 事業名           | 担当課   | 事業の主な取組内容と成果  | 評価項目        | 最終到達目標値           | 目標(上段)と実績(下段) |                  |                  |
|---------------|---------------|---|---|-------------|-------------------|---------------|------------------|------------------|
|               |               |   |   |             |                   | H27           | H28              | H29              |
| (1) 文化財保護助成事業 | 歴史文化財課        | 草津宿街道交流館運営事業  | 指定文化財の所有者が文化財を適正に保存管理できるよう補助金を交付した。令和元年度は、指定文化財の防災設備の保守点検やサンヤレ踊りなどの民俗文化財保存育成事業などの22件に対して補助金を交付するとともに所有者から意見聴取などをを行い、指定文化財の適正な保存が図れるように取組を進めた。   | 補助達成率       | 100.0%            | 目標達成度<br>実績   | 100.0%<br>100.0% | 100.0%<br>100.0% |
| (2) 学校連携事業    | 草津宿街道交流館      | 草津宿年間入館者数   | 市民が草津の歴史文化に愛着を持つことができるよう、例年実施している草津宿街道交流館でのテーマ展示や歴史講座を実施し、草津宿の魅力発信に努めた。また、草津宿本陣歴史資料調査、青花紙保存育成事業の実施など、本市の貴重な歴史の解明と保存継承に向けての取組をおこなった。開館20周年記念事業の展開により、上半期は入館者数の大福な増加がみられたものの、年度末に新型コロナウィルスの影響による団体等の予約キャンセルが発生したため、結果的には目標値(※1)をやや上回る15,915人となった。 | 目標達成度<br>実績 | 12,400<br>13,100人 | 目標達成度<br>実績   | 12,500<br>13,100 | 目標達成度<br>実績      |
| (3) 学校連携事業    | 草津宿街道文<br>化財課 | 草津宿本陣で夏休み特別企画として「トイザらーグーリー」等を実施し、子どもに向け事業を積極的に展開した。また、市内外小中学校との連携事業として、職場体験3件(草津中・老上中・高穂中)、地域学習の一環として、高学年の児童を対象とした史跡南北笠古墳の見学会2件(老上小・老上西小)を開催し、子どもたちが地域の歴史に直接ふれあい関心をもつ契機ることができた。 | 学校と連携して実施した事業の件数  | 31件         | 目標達成度<br>実績       | 27<br>21      | 28<br>30         | 31<br>27         |

| 課題<br>施設番号       | 事業名  | 担当課             | 昨年度の外部評議委員等の意見   | 今後の課題  | 外部評議委員の意見 |
|------------------|--|-----------------|--|--|-----------|
| (1) 文化財保護助成事業    | 「地域に根ざした文化財」をどのように捉えて、どういう施策をとるべきなのか、今後、計画を策定させていたいと思う。  | 歴史文化財課          | 平成30年度策定の「草津市歴史文化基本構想」において、草津市の文化財の特徴を大きく「生産」「伝承」「保存・活用」に分けて、「街並」に整理し、令和元年度作成の「草津市文化財保存活用地域計画」において、今後の保存・活用について、「堅ぐ」「伝える」「創る」「守る」の5つの基本方針で取り組むこととした。                     | 本市に所在する未指定文化財(美術工芸品・民俗文化財等)が多く存在しており、「草津市文化財保存活用地域計画」を踏まえて、総合的に調査を進める必要がある。  |           |
| (2) 草津信街道交流館運営事業 | 多くの方が来られているというのには、取組の成果だと思うので、今後も引き続き来館者が増えるように取り組んでほしい。 | 草津宿街道交流館        | 開館20周年記念事業として、大草津展と銘打ち、「歴史編」「民族編」「考古編」と三つのテーマに分けて企画展を実施するとともに、SNSでの情報発信やメディアへの情報提供など積極的な発信に努めた。  | 草津の歴史などに关心のない層への情報発信や事業内容、また事業の実施日、時間などに工夫が必要である。また、新型コロナウイルスの影響により見学・参加型の事業展開に制限があるため、SNSをはじめとした種々の情報発信に力を入れていく必要がある。                                   |           |
| (3) 学校連携事業       | より多くの子どもたちが地元の歴史や、文化財に興味を示すような取組を今後も進めたいってほしい。           | 草津宿街道交流館／歴史文化財課 | 前年に引き続き、小学校への出前授業を2件実施した。また、ショッピングモールでのイベントを開催するなど、多くの子どもにも歴史文化に触れる機会を提供できるよう取り組んだ。また、草津宿街道交流館・史跡草津宿本陣の子ども向けの「みちくさラボ」事業の取組で、学校の協力を得るなど、連携を図りながら子どもたちの歴史文化への関心を高めることに努めた。 | 学習機会の提供にとどまらず、対象となる子どもの年齢構成等を考慮し、子どもたちの歴史文化への意識の高まりに配慮した事業メニューを随時見直し、継続的に実施する必要がある。また、新型コロナウイルスの影響による見学・参加型の事業展開に制限があるため、SNSをはじめとした種々の情報発信に力を入れていく必要がある。 |           |

注釈

(※1)目標値…総合計画に定めた史跡草津宿本陣と草津宿街道交流館との両館入館者数32,700人(平成30年度)のうち草津宿街道交流館・史跡草津宿本陣での子どもも向け事業で、対象事業に参加するヒノベルティビポイントがもたらえる。

|      |   |  |    |                           |
|------|---|--|----|---------------------------|
| 基本方向 | 3 | 地域に豊かな学びを創る  |    |                           |
| 目標   | 8 | 文化・芸術の振興   | 施策 | 4-0 市民が文化・芸術にふれる機会を推進します。 |
| 具体目標 | ウ | 文化・芸術の振興   |    |                           |
| 具体施策 |   | (1) 文化・芸術活動の育成支援と各種事業の充実を図ります。<br>(2) 文化・芸術活動の担い手となる子どもたちの育成に努めます。<br>(3) 多様な地域資源を活用した文化・芸術に触れる機会づくりに努めます。 |    |                           |

| 取組状況                        |       |  |                               | 目標(上段)と実績(下段) |         |                |                |                |                |                |
|-----------------------------|-------|--|-------------------------------|---------------|---------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 施策番号                        | 事業名   | 担当課  | 事業の主な取組内容と成果                  | 評価項目          | 最終到達目標値 | H27            | H28            | H29            | H30            | R1             |
| (1) 文化・芸術活動の育成支援と各種事業の充実    | 生涯学習課 | 「草津市美術展覧会」を開催して、6部門(日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真)の公募等の作品を展示し、市民に創作活動および鑑賞の機会を提供した。会期初日には、オープニングセレモニーを実施するとともに、最終日には作品批評会を実施し、観覧者数の増加に取り組んでいるが、全国的に出品者が観覧者の固定化および減少の課題があり、また平成30年度・令和元年度は会期中に台風が発生したことから観覧者数が減少した。 | 市美術展覧会の観覧者数(人)                | 2,000人        | 目標実績    | 1,950<br>1,992 | 2,000<br>1,495 | 2,000<br>1,715 | 2,000<br>1,391 | 2,000<br>1,257 |
| (2) 文化・芸術活動の担い手となる子どもたちの育成  | 生涯学習課 | 文化・芸術活動の担い手となる子どもたちの育成を行ったため、「アートフェスティバル(※1)」を、草津市21世紀文化芸術推進協議会および草津まちづくり株式会社に委託し、開催した。令和元年度は、草津市役所周辺だけではなく、草津宿本陣近隣の寺院においても、アートプログラムや回遊する謡解きを実施し、多くの方に文化・芸術に親しむ機会を提供することでききたことにより、目標より大きく増加している。       | アートフェスティバルにおけるワークショップの参加者数(人) | 1,500人        | 目標実績    | 500<br>520     | 550<br>1,338   | 1,400<br>1,812 | 1,450<br>2,946 | 1,500<br>3,058 |
| (3) 地域資源を活用した文化・芸術に触れる機会づくり | 生涯学習課 | 地域の文化・芸術振興の拠点となる草津アミカホール、草津クレアホールにおいて、「市民文化祭」「市民音楽祭」「合唱祭」「グラスフェスティバル」など、地元の文化団体との連携や、草津市にゆかりのあるアーティストを活用した事業実施の他、草津の魅力をテーマにしたミュージカルを上演するなど、地域資源を活用した文化・芸術に触れる機会づくりにより、草津への愛着や市民文化の意識の高まりを醸成した。         | 文化ホールにおける地域資源を活用した事業数         | 30事業          | 目標実績    | 30<br>30       | 30<br>35       | 30<br>39       | 30<br>39       | 30<br>31       |

| 課題<br>施設番号                     | 事業名   | 担当課 | 昨年度の外部評議委員等の意見   | 今後の課題   | 外部評議委員の意見   |
|--------------------------------|-------|-----|--|---|---|
| (1)<br>文化・芸術活動各種事業の充実          | 生涯学習課 |     | 毎回出品いただいたいる方も大事にしながら、新しい方からも出品ごとで、多くの方が参加されるような行事になるよう取り組んでもいい   | 市美展への出品募集について、広報くさつやホームページ、各施設にポスターの設置等を行うとともに、審査員等による作品批評会を実施し、出品者にどつて魅力ある展覧会となる取り組んでもいい。出品者の固定化、減少などの問題に対してもは、実行委員会において対策を検討したり、文化振興審議会と意見交換会を実施して課題を議論した。                        | 市美展については、全国的に出品者・観覧者との固定化および減少の問題がある。本市では、令和3年度に(仮称)市民総合交流センターに会場を移転する予定であることから、今年度実行委員会に学識経験者などの新たな委員に参画いただき、新たな視点から検討を行う。 |
| (2)<br>文化・芸術活動の担い手となる子どもの育成    | 生涯学習課 |     | 「de愛ひいろば」や「ai彩ひいろば」など、様々な場所で、ワークショップが行われて、いれば、より多くの子どもが参加する機会が増えて良いと思う。                                    | 文化・芸術に触れ合える多くのワークショップが開催されるアートフェスタやイオンモール草津での、ワークショップにおいて、協力してもらっているアーティストやコーディネーターを中心とした、イオンモール草津と文化振興に関する協定を締結し、アートフェスタのプレイベントとして、イオンモール草津でビワアートフェスを実施したり、毎月アーティストによるワークショップを行った。 | アートフェスタやイオンモール草津での、ワークショップにおいて、協力してもらっているアーティストやコーディネーターを中心に、文化ホールや集客力のある商業施設、文化団体等と連携して、機会を見ながら増やしていく必要がある。                |
| (3)<br>地域資源を活用した文化・芸術に触れる機会づくり | 生涯学習課 |     | 情報発信については、一部の子どもも向けイベントについて学校へのチラシ配布を行った他、広報くさつへの掲載、市や文化ホールのホームページ、文化ホール情報誌の発行、南草津駅自由通路掲示板やラックへのチラシ設置を行った。 | 保護者に対しての情報発信は、子どもにもチラシを配布するのが効果的だと思うので、様々なチラシを提供してもらいたい。  | イベント内容によって学校へのチラシへの配布を行う他、南草津駅のデジタルサイネージの活用の他、効果的な報手段について、指定管理者と共に検討を行う。  |

注釈

(※1)アートフェスタ…子どもから子育て世代をターゲットに、1日を通してアートに触れることができる参加型のイベントを、10月頃に市役所周辺を会場に開催する。

|       |   |              |  |
|-------|---|--------------|--|
| 基本方向  | 3 | 地域に豊かな学びを創る  |  |
| 目標    | 9 | 地域協働校の推進     |  |
| 具体目標  | ア | 地域が支援する学校づくり |  |
| 具体的施策 |   |              | (1)地域の人が学校や幼稚園の教育活動を支援し、子どもと関わる取組を益します。<br>(2)情報収集や人材のネットワークなど、学校と地域の連携を深められる体制づくりのための地域による学校支援の充実に努めます。 |

| 取組状況       |   |  | 評価項目   |                                       |                            |              |              |                              |
|------------|---|--|--|---------------------------------------|----------------------------|--------------|--------------|------------------------------|
| 施策番号       | 事業名   | 担当課  | 事業の主な取組内容と成果   | 最終到達目標                                | H27                        | H28          | H29          | 目標(上段)と実績(下段)                |
| (1)<br>(2) | 生涯学習課<br>による学校支援<br>地域ボランティア<br>による学校支援<br>の推進(地域協<br>働校推進事<br>業)<br>【再掲(施策2<br>5)】 | 地域ボランティア<br>による学校支援<br>地域ボランティア<br>による学校支援<br>の推進(地域協<br>働校推進事<br>業)<br>【再掲(施策2<br>5)】 | 以前は、支援参加者の実数把握ができず、見学者も含めた数値となっていましたが、コーディネーター配置により実数把握が可能となつたことから、目標値と実績が乖離する状況となつていて、日々支援参加者は増加傾向である。<br>地域の伝統文化継承、地域の歴史や郷土料理を学ぶ等、自分の地域を誇ることにつながる事業や、地域の生き物観察、まち探検、身近に働く人のインタビュー、そろばんや書道等、専門的な学びに取り組んだ。地域へのインターネット(※1)のネットワークのもと、学校での支援ボランティアを登録制にしたり、活動内容を地域に広く案内したりすることで、これまで以上に子どもたちの体験活動を充実させることができた。<br>具体的な例として、立命館大学生による科学実験、星の観察など、教科につながる事業を実施した。 | 学校支援参加<br>者平均延べ人<br>数<br>1,400人/<br>校 | 目標<br>実績<br>1,200<br>1,257 | 1,250<br>634 | 1,300<br>699 | 1,350<br>735<br>1,400<br>794 |

| 課題   |   | 施設番号  | 事業名   | 担当課 | 昨年度の外部評議委員等の意見  | 昨年度からの対応   | 今後の課題 | 外部評議委員の意見 |
|--|---|-------|-------|-----|---|--|-------|-----------|
| 概要   | 内容  |       |       |     |   |  |       |           |
| (1) 地域ボランティアによる学校支援<br>(2) の推進(地域協働事業)<br>【再掲(施策2<br>5)】 | 地域コーディネーターは、学校のことを知っていて、かつ、地域でのネットワークを持つかつてないと難しい。<br>引き継ぎや負担の軽減を考え考慮して、複数人の配置を検討してもらいたい。 | 生涯学習課 | 生涯学習課 |     | 全小学校に地域コーディネーターを配置し、学校や地域の架け橋になり活動していただくことが定着してきた。平成31年4月には、地域コーディネーターを、社会教育法に基づく地域学校協働活動推進員として、教育委員会が委嘱している。コーディネーターの複数配置や、コーディネーターの活動時間についても、各校一律から、上半期の実績に応じた傾斜配分を採用するなど、各学校の状況に合わせた運用を行った。また、広報くさつやコンパンパスに優良事例を紹介し、地域協働会校の取組の様子をより身近に感じていただけるようにした。 | 多くの地域で、支援ボランティアの固定化や高齢化が課題とされるが、現役世代も仕事と家庭の両立で苦労しており、負担軽減を機野に入れた学生ボランティア活用など、関わり方を検討する必要がある。 |       |           |

|      |   |  |                               |
|------|---|--|-------------------------------|
| 基本方向 | 3 | 地域に豊かな学びを創る  |                               |
| 目標   | 9 | 地域協働校の推進   | 施策 42 子どもと大人が共に参加する地域活動を進めます。 |
| 具体目標 | イ | 地域で子どもが育つまちづくり   |                               |
| 具体施策 |   | (1) 日常的な地域活動に子どもと大人が参加し、共に活動できるようにします。<br>(2) 学校教育と連携した地域活動を通して子どもの育成を目指します。 | (地域一括交付金による事業)                |

#### 取組状況

| 施策番号       | 事業名                                | 担当課   | 事業の主な取組内容と成果  | 評価項目         | 最終到達目標      | 目標(上段)と実績(下段) |       |       |
|------------|------------------------------------|-------|---|--------------|-------------|---------------|-------|-------|
|            |                                    |       |   |              |             | H27           | H28   | H30   |
| (1)<br>(2) | 子どもが参加する地域交流・体験活動会の充実<br>【再掲(施策3)】 | 生涯学習課 | 通学合宿や宿泊体験は、予定どおり実施され、地域の伝統文化を学んだり、防災体験、野菜作り、もちつき大会等、地域の方と一緒に子どもたちが活動する機会が設けられた。活動によって[は]、スペースや道具の数に制限があり、参加者を増やすことが難しい事業もあるが、実施方法を工夫することにより、子どもたちは順番を待つことや、皆と共有することの大切さを学んでいる。こうした各地域まちづくりセンターでの活動を通して、体験のみで終わることなく、知恵を育むむじ学びのもと、人と人との絆が生まれ、地域への愛着心の醸成につながった。 | 実績<br>8,000人 | 目標<br>7,500 | 7,650         | 7,800 | 7,900 |
|            |                                    |       |   | 目標達成度        | 97.7%       | 84.9%         | 81.5% | 74.5% |
|            |                                    |       |   |              |             |               |       | 90.1% |

| 課題<br>施策番号 | 事業名                                    | 担当課   | 昨年度の外部評議委員等の意見   | 昨年度からの対応  | 今後の課題   | 外部評議委員の意見 |
|------------|--|-------|--|---|---|-----------|
| (1)<br>(2) | 子どもが参加する地域交流・体験(地域協働合校事業)<br>【再掲(施策3)】 | 生涯学習課 | 地域で活動する方が高齢化しており、また保護者世代の参画も難しい中、大学生の協力を促すのは良い取組だと思う。事業に関してPTA役員の負担が大きくならないようにしてほしい。 | 地域協働合校の活動の良さを広めるために研修会を開催し、地域と学校が連携・協働する仕組みを学ぶ機会を設けた。その中で、一つのイベントとして完結するのではなく、日頃の学びとの関連性や、実体験を通じた豊かな学びを提供していくことについて、理解を深めた。学校では、学習支援として、長期休眠中の地域の学生ボランティアを活用した。 | 学区独自の取組の中から、他にも有効と思われる活動を取り扱い、「協働通心」(年6回程度発行)の発行を継続する。また、学区活動においても、学校との連携を図り、学生ボランティアなどの情報共有が進められるよう体制を整備する必要がある。 |           |

注釈

